

# Johann Sebastian Bach

## Matthäus Passion

### J.S.バッハ マタイ受難曲 対訳

目次		曲番号	ページ
第Ⅰ部	冒頭合唱	Nr.1	2
	受難の予言とイエスに対する謀議	Nr.2 - 4b	2
	ベタニアの香油	Nr.4c - 6	3
	ユダの裏切り	Nr.7 - 8	4
	最後の晩餐	Nr.9a - 13	5
	オリーブ山での離反の予告	Nr.14 - 17	7
	ゲッセマネの祈り	Nr.18 - 25	9
	イエス捕縛	Nr.26 - 28	11
	第Ⅰ部終結コラール	Nr.29	13
	第Ⅱ部	アリアと合唱	Nr.30
大祭司カイファの審問		Nr.31 - 37	14
ペテロの否認		Nr.38a - 40	16
ユダの自殺		Nr.41a - 43	18
総督ピラトの審問		Nr.43 - 50d	19
鞭打ち		Nr.50e - 54	22
ゴルゴタ・十字架		Nr.55 - 60	24
イエスの死		Nr.61a - 63b	26
降架と埋葬		Nr.63c - 66	28
哀悼		Nr.67 - 68	30
あとがきに代えて		31	

#### テキストについて

自由詩（レチタティーヴォ&アリア、合唱）

全てピカンダー(Picander、本名 Christian Friedrich Henrici,1700-64)による作詞。

『まじめな詩・諧謔的な詩・風刺的な詩(Ernst-Schertzhafte und Satyrische Gedichte)』第2集(1729)に収録。

第1曲・第19曲もコラールを組み込んだ形で書かれている。

彼は失われた「マルコ受難曲」の歌詞も書いている。（「ヨハネ受難曲」の作詞者は不明。）

#### 主要コラール3種

A. Herzliebster Jesu 詞：Johann Heermann(1585-1657)、旋律：Johann Crüger(1598-1662)  
Nr.3(第1節)、Nr.19(第3節)、Nr.46(第4節)

B. O Welt, sieh hier dein Leben 詞：Paul Gerhardt(1607-76) 旋律：Heinrich Isaac(1450c.-1517)  
Nr.10(第5節)、Nr.37(第3節)  
元となった旋律は「Innsbruck, ich muss dich lassen」とされている。

C. O Haupt voll Blut und Wunden 詞：Paul Gerhardt 旋律：Hans Leo Haßler(1562-1612)  
Nr.15(第5節)、Nr.17(第6節)、Nr.54(第1・2節)、Nr.62(第9節)  
また Nr.44 は旋律のみ使用(詞は Gerhardt の別コラール)

上記以外のコラールは Nr.1, 25, 29, 32, 40 の5曲のみ

#### 当対訳について

曲番号は新バッハ全集の番号 NBA、続く【 】は旧バッハ全集の番号 BWV、( )はマタイ福音書の章節番号である。  
合唱が歌うところのみ歌詞のフォントを「メイリオ」にし、逐語訳も添えた。

## 第I部

### 第1曲【1】冒頭二重合唱 & コラール

Kommt, ihr Töchter, helft mir klagen,  
来たれ 汝ら 娘たちよ 助けよ 私が 訴える・嘆く※

来たれ、娘たちよ、私の嘆き・訴えを聴いて！※

Sehet -Wen? -den Bräutigam,  
見よ 誰を 花婿を

見よ 一誰を？ 一花婿を。

Seht ihn -Wie? -als wie ein Lamm!  
見よ 彼を どんな ~のような 子羊

彼を見よ 一どのような？ 一子羊のような！

Sehet, -Was? -seht die Geduld,  
見よ 何を 見よ その忍耐を

見よ 一何を？ 一彼の忍耐を。

Seht -Wohin? -auf unsre Schuld;  
留意せよ どこに 私たちの 罪に

留意せよ 一どこに？ 一私たちの罪に。  
(sehen + auf 4格、~に注意を向ける)

Sehet ihn aus Lieb und Huld  
見よ 彼を ~から 愛 と 慈しみ

彼を見よ。愛と慈しみの故に、  
(aus は内的動機を表す)

Holz zum Kreuze selber tragen!  
木 十字 自ら 背負う

自ら十字の木柱を背負っている(彼を)！

※ 普通、helft mir klagen は「私とともに嘆いて下さい」と訳されることが多い。(直訳なら「私が嘆くのを助けて」だ。)しかしここでは、横浜のハルモニークォールの団員通信の記事に賛同して、klagen を「嘆く」ではなく「訴える」と解釈した。この場面は、出来事を間近で見る第1合唱「シオンの娘」が、第2合唱の「信ずる者たち」に対して、ただ単に「イエスを失う悲しみをともにして欲しい」と言っているのだろうか？ その後の対話を見ればわかるように、イエスの受難そのものの意義について「訴えている」と考えるべきだ、というのである。

<コラール> 詞曲 Nikolaus Decius 「O Lamm Gottes unschuldig」第1節

O Lamm Gottes, unschuldig  
おお 子羊よ 神の 罪の無い

おお、神の子羊よ、罪無くして

am Stamm des Kreuzes geschlachtet,  
~に 幹 十字の 屠られた

十字の幹に屠られた(御方よ)

allzeit erfunden geduldig,  
常に でっち上げられ 忍耐強い

常に、企みにあっても、耐え忍ばれた  
※ erfinden(発明する、でっちあげる)の完了分詞

wiewohl du warest verachtet.  
にもかかわらず あなたは (受動) 侮られた

あなたはどんなに侮られたにもかかわらず。

All' Sünd' hast du getragen,  
全ての 罪を (完) あなたは 背負われた

全ての罪をあなたは背負われた。

sonst müssten wir verzagen.  
さもなければ ~に違いない 私たちは 絶望する

さもなければ私達は絶望していたに違いない。

Erbarm dich unser, o Jesu!  
憐れんで下さい 私たちを イエスよ

私たちを憐れんでください、おおイエスよ！

## 受難の予言とイエスに対する謀議

### 第2曲【2】(Matthäus 26:1-2)

福音史家：Da Jesus diese Rede vollendet hatte,  
sprach er zu seinen Jüngern:

イエスはこれらの言葉を語り終えると、  
弟子たちに言った。

イエス： Ihr wisset,  
dass nach zweien Tagen Ostern wird,  
und des Menschen Sohn  
wird überantwortet werden,  
dass er gekreuziget werde.

お前たちも知っている通り、  
二日後は過越となる。  
そして、人の子は  
ひき渡されるだろう、  
十字架につけられるために。

第3曲【3】 コラール 詞：Johann Heermann 「Herzliebster Jesu」 第1節 旋律：A

Herzliebster Jesu,  
心から愛する イエス

心より愛するイエスよ、

was hast du verbrochen,  
何を (完) あなたは 罪を犯した

何の罪を犯したのですか、

dass man ein solch scharf Urteil hat gesprochen? そんな厳しい判決を言い渡されたとは?  
(不定代名詞) そのような 厳しい 判決を (完) 言い渡した

Was ist die Schuld,  
何ですか 罪は

罪は何なのですか、

in was für Missetaten bist du geraten?  
~の中に どのような 悪事 (完) あなたは 陥った

どのような悪事にあなたは陥ったのですか?  
※ was für どのような

第4a曲【4】 (26:3-5)

福音史家： Da versammelten sich die Hohenpriester  
und Schriftgelehrten und die Ältesten im Volk  
in den Palast des Hohenpriesters,  
der da hieß Kaiphas,  
und hielten Rat,  
wie sie Jesum mit Listen griffen und töteten.  
Sie sprachen aber:

そのころ、祭司長たちや  
律法学者および民の長老たちは、  
カイファという名の  
大祭司の屋敷に集まり、  
どのような計略で、  
イエスを捕らえ殺そうか、と協議した。  
そこで彼らは言った。

第4b曲【5】 (26:5) 二重合唱

Ja nicht auf das Fest,  
そうだ ダメだ の期間(+4格) 祭

そうだ、祭の間はいけない、

auf dass nicht ein Aufruhr werde im Volk.  
~ように(目的) ない 騒乱が 起きる 民衆の中で

民衆の中で騒ぎが起きないようにしよう。

## 香油を注ぐベタニアの女

第4c曲【6】 (26:6-8)

福音史家： Da nun Jesus war zu Bethanien,  
im Hause Simonis des Aussätzigen,  
trat zu ihm ein Weib,  
die hatte ein Glas mit köstlichem Wasser  
und goss es auf sein Haupt,  
da er zu Tische saß.  
Da das seine Jünger sahen,  
wurden sie unwillig und sprachen:

さて、イエスが、ベタニアで、  
癩病人シモンの家に行った時、  
一人の女が、高価な香油の入った  
ガラス容器を持って、彼に近寄り、  
イエスの頭に香油を注いだ。  
それは彼が食卓に着いていた時だった。  
すると、イエスの弟子たちはそれを見て、  
腹を立てて言った。

※「イエスへの塗油」の話はマタイ・マルコは全く同じである。マルコ 14:3-9 ではその香油の値段は 300 デナリ以上 (=労働者の年収)とされているので、この女性は所謂「罪深い生業」によって富裕であったと考えられる。しかしそれは癩病人シモンの家計を成り立たせるためだったに違いない。ヨハネ 12:1-8 では、同じベタニアで、イエスが死者から甦らせたラザロの妹マリアが足に香油を塗る話がある。ここで「300 デナリで売れたのに」と批難したのはユダとされている。これもユダをさらなる悪人に仕立て上げる作り話だろう。しかしルカ 7:37-50 では、イエスがパリサイ派の家に行った時、罪深い女が現れて香油をイエスの足に塗った、イエスはその罪を許した、とある。その直後の 8:2 で、マグダラのマリアがイエスに癒やされた女として紹介されているため、連想によって、マグダラのマリアは罪深い女であるとされてしまったのである。

#### 第4 d 曲【7】(26:8-9) 合唱 I

Wozu dienet dieser Unrat?

何のために 役立つ この 無駄

何のために、こんな無駄使いをするのか?

Dieses Wasser hätte mögen teuer verkauft

この 香油は できたらろう 高値で 売られて

この香油は高く売られて、

und den Armen gegeben werden.

貧しい人たちに※ 施しを与えられた

貧しい人々に施しとして与えられたらうに。

※旧全集 Arme

#### 第4 e 曲【8】(26:10-13)

福音史家： Da das Jesus merketete, sprach er zu ihnen:

イエスは気づかれて、弟子たちに言った。

イエス： Was bekümmert ihr das Weib?  
Sie hat ein gut Werk an mir getan.  
Ihr habet allezeit Armen bei euch,  
mich aber habt ihr nicht allezeit.  
Dass sie dies Wasser  
hat auf meinen Leib gegossen,  
hat sie getan, dass man mich begraben wird.  
Wahrlich, ich sage euch:※  
Wo dies Evangelium geprediget wird  
in der ganzen Welt,  
da wird man auch sagen zu ihrem Gedächtnis,  
was sie getan hat.

なぜ、お前たちはこの女を困らせるのか?  
彼女は私に良い事をしてくれたのだ。  
貧しい人々は常にお前たちの周りにいるが、  
私は常にお前たちと一緒にいるわけではない。  
彼女が香油を  
私の体に注いだのは、  
私が葬られるためにしてくれた事なのだ。  
まことに(※Amenの訳)、お前たちに言っておく、  
この福音が宣べ伝えられるであろう所では  
世界中どこでも、  
彼女のしてくれたこともまた、  
彼女の記念として語り伝えられるだろう。

#### 第5 曲【9】 レチタティーヴォ (アルト)

Du lieber Heiland, du,  
wenn deine Jünger töricht streiten,  
dass dieses fromme Weib  
mit Salben deinen Leib  
zum Grabe will bereiten,  
so lasse mir inzwischen zu,  
von meiner Augen Tränenflüssen  
ein Wasser auf dein Haupt zu gießen!

愛する救い主であるあなた、  
あなたの弟子たちは愚かにも言い争いました、  
この敬虔な女が  
あなたの身体に香油を塗ることによって  
墓へ(葬る)準備をしたことについて。  
それでも、私にお許し下さい、  
私の目から流れる涙の  
一滴をあなたの御頭に注ぐことを。

#### 第6 曲【10】 アリア (アルト)

Buß' und Reu'  
knirscht das Sündenherz entzwei,  
dass die Tropfen meiner Zähren  
angenehme Spezerei,  
treuer Jesu, dir gebären.

懺悔と後悔は きし  
この罪深い心を軋ませ二つに引き裂きます。  
そして私の涙の滴は  
心地よい香料となって  
誠実なイエスよ、あなたに注がれるのです。

### ユダの裏切り

#### 第7 曲【11】(26:14-16)

福音史家： Da ging hin der Zwöfen einer  
mit Namen Judas Ischarioth  
zu den Hohenpriestern und sprach:

その頃、十二人の一人で  
イスカリオテのユダという名の者が、  
祭司長たちの所へ行き、言った。

ユダ： Was wollt ihr mir geben?  
Ich will ihn euch verraten.

あなた方は私に幾らくれるでしょうか?  
私が彼を裏切ってあなた方に売り渡しましょう。

福音史家： Und sie boten ihm dreißig Silberlinge.  
Und von dem an suchte er Gelegenheit,  
dass er ihn verriete.

そこで彼らは銀貨30枚をユダに提供した。  
この時からユダは、  
イエスを裏切る機会を探し求めていた。

## 第8曲【12】 アリア (ソプラノ)

Blute nur, du liebes Herz!  
Ach! ein Kind, das du erzogen,  
das an deiner Brust gesogen,  
droht den Pfleger zu ermorden,  
denn es ist zur Schlange worden.

血を流すがよい、汝、愛する心よ！  
ああ！あなたが育てた、  
あなたの乳を吸った子が、  
その養育者を殺そうと脅かす。  
なぜなら、その子は蛇になってしまったから。  
※

※「蛇」とはもちろん、アダムとイヴを墮落させた蛇で、神はその蛇に対して「お前は彼のかかとを砕く」と言った。  
ここから、お前=ユダ、彼=イエス、かかとを砕く=接吻という図式が出てくる。またプロテスタントでは  
聖母マリア崇拝を排除した結果、イエス自身に母性を重ねる解釈から、この“授乳するイエス”の詞が生まれた。

※ Carus 版では、3行目が「das aus deiner Brust gesogen」となっている。元の楽譜に an と aus の2種あるらしい。

旧ブライトコプフ版もペーレンライター版も an なので、ほとんどの録音は an。

## 最後の晩餐

### 第9 a 曲【13】 (26:17)

福音史家： Aber am ersten Tage der süßen Brot  
traten die Jünger zu Jesu und sprachen zu ihm:

さて、種なしパンの祭第一日※に、  
弟子たちがイエスのもとに来て、彼に言った。

※ ニサンの14日のこと。この日からニサンの21日までの8日間、発酵したパンを食べない(除酵祭)。  
ニサンの14日の夕方までに子羊を屠りその血を戸柱に塗る。日没で日付が変わり15日となった夜が「過越」で、  
子羊を焼いて、種なしパンと苦菜を添えて食べる(過越の食事)。「過越」とは出エジプトの前夜、子羊の血を塗った  
ユダヤ人宅の扉を呪いが通り越していった、ということからの名称である。

### 第9 b 曲【14】 (26:17) 合唱 I

Wo willst du, dass wir dir bereiten,  
どこ 思う あなたは 我々が あなたに 用意する

どこに、用意をいたしましょうか

das Osterlamm zu essen?  
過越 食事をとる

過越の食事をする所を?

### 第9 c 曲【15】 (26:18-21)

福音史家： Er sprach:

イエスは言った。

イエス： Gehet hin in die Stadt zu einem  
und sprecht zu ihm:  
Der Meister lässt dir sagen:  
Meine Zeit ist hier,  
ich will bei dir  
die Ostern halten mit meinen Jüngern.

街のある人のところに行って、  
彼にこう言いなさい。  
「先生があなたにこう言っています。  
『私の時が近づいた。  
私はあなたの所で  
弟子たちと一緒に過越をしたい』と。」

福音史家： Und die Jünger taten,  
wie ihnen Jesus befohlen hatte,  
und bereiteten das Osterlamm.  
Und am Abend  
satzte er sich zu Tische mit den Zwölfen.  
Und da sie aßen, sprach er:

弟子たちは、 ※ tät は tun 過去形 tat の古語  
イエスが命じたとおりにして、  
過越の食事を準備した。  
晩になると、 ※ satzte は setzen 過去形 setzte の古語  
イエスは十二人と一緒に食卓に着かれた。  
一同が食事をしているとき、イエスは言われた。

イエス： Wahrlich, ich sage euch:  
Einer unter euch wird mich verraten.

まことに、お前たちに言っておく。  
お前たちのうちの一人が私を裏切るだろう。

### 第9 d 曲 (26:22)

福音史家： Und sie wurden sehr betrübt und huben an,  
ein jeglicher unter ihnen, und sagten zu ihm:

弟子たちは非常に悲しんで、  
各々それぞれ、イエスに対して言い始めた。

※ hub は heben 過去形 hob の古語、an\_heben ~し始める(雅語)

### 第9 e 曲 (26:22) 合唱 I

Herr, bin ich's?

主よ それは私ですか?

主よ、それは私ですか?

※この曲で Herr という呼びかけが11回ある。十二使徒のうちユダを除く11名が次々に呼びかけたことを表す。

第10曲【16】 コラール

詞：Paul Gerhardt 「O Welt, sieh hier dein Leben」 第5節 旋律：B

Ich bin's, ich sollte büßen,

それは私です、 私が ~すべきだ 償いをする

それは私です、私が償うべきなのです。

an Händen und an Füßen

両手 と 両足を

両手、両足を

gebunden in der Höll'.

縛られて ~の中で 地獄

地獄の中で縛られるべきなのです。

Die Geißeln und die Banden

鞭打ち と 縄

鞭打ちと縄、

und was du ausgestanden,

そして (関代) あなたが 耐え忍んだ

そしてあなたが耐え忍ばれた苦難、

das hat verdient meine Seel'.

それを (完) 受けるべきだった 私の 魂は

私の魂は、それを当然受けるべきだったのです。

※ verdienen(～に値する、受けて然るべきだ)

第11曲【17】 (26:23-29)

福音史家： Er antwortete und sprach:

イエスは答えて言った。

イエス： Der mit der Hand mit mir  
in die Schüssel tauchet,  
der wird mich verraten.  
Des Menschen Sohn gehet zwar dahin,  
wie von ihm geschrieben stehet;  
doch wehe dem Menschen,  
durch welchen des Menschen Sohn  
verraten wird!  
Es wäre ihm besser,  
dass derselbige Mensch noch nie geboren wäre.

私とともに  
鉢に手を浸している者、  
その者が私を裏切るだろう。  
確かに、人の子は去って行く、  
聖書に書かれてあるとおりに。  
だが、その者は哀れだ..  
人の子を裏切るその者は！  
(※彼によって人の子が裏切られる所のその者は！)  
彼にとって、より良かったのは、  
彼自身が生まれてこないことだったのに...

福音史家： Da antwortete Judas, der ihn verriet,  
und sprach:

すると、イエスを裏切ったユダが  
答えて言った。

ユダ： Bin ich's, Rabbi?

先生、それは私ですか？

福音史家： Er sprach zu ihm:

イエスは彼に言った。

イエス： Du sagest's.

お前がそう言うのか。※

※これは聖書学者田川建三氏の名訳である。既に裏切っているお前が、そういう物言いをするのか? というイエスの気持ちを表現している。  
バッハもこの Du sagest's.だけ上昇音型を付けている。

福音史家： Da sie aber aßen, nahm Jesus das Brot,  
dankete und brach's,  
und gab's den Jüngern und sprach:

一同が食事をしている時、イエスはパンを取り、  
感謝して、それを裂き、  
弟子たちに与えて言った。

イエス： Nehmet, esset, das ist mein Leib.

取って食べなさい。これは私の体である。

福音史家： Und er nahm den Kelch und dankete,  
gab ihnen den und sprach:

また、杯を取り、感謝して、  
彼らに与えて言った。

イエス： Trinket alle daraus;  
das ist mein Blut des neuen Testaments,  
welches vergossen wird  
für viele zur Vergebung der Sünden.

皆、この杯から飲みなさい。  
これは、新しい契約のための私の血、  
多くの人にとって罪の許しのために  
流される血である。

Ich sage euch:  
Ich werde von nun an nicht mehr  
von diesem Gewächs des Weinstocks trinken  
bis an den Tag, da ich's neu trinken werde  
mit euch in meines Vaters Reich.

お前たちに言うておく。  
私は今より後、葡萄から造られた  
このような酒を飲むことは決してないだろう。  
私の父の国でお前たちとともに、  
新たに飲むであろうその日まで。

### 第12曲【18】 レチタティーヴォ (ソプラノ)

Wiewohl mein Herz in Tränen schwimmt,  
dass Jesus von mir Abschied nimmt,  
so macht mich doch sein Testament erfreut:  
Sein Fleisch und Blut, o Kostbarkeit,  
vermacht er mir in meine Hände.  
Wie er es auf der Welt mit denen Seinen  
nicht böse können meinen,  
so liebt er sie bis an das Ende.

私の心は涙の中を漂っています。  
イエスが私に別れを告げているからです。  
それにもかかわらず、彼の契約は私を喜ばせます。  
彼の肉と血、おお、この尊いものを  
彼は私の手に遺してくれたのです。  
彼は、この世で彼とともに在った者を  
悪く思うことなどできなかったように、  
世の終わりまで、彼らを受けてくださるのです。

### 第13曲【19】 アリア (ソプラノ)

Ich will dir mein Herze schenken,  
senke dich, mein Heil, hinein!  
Ich will mich in dir versenken;  
ist dir gleich die Welt zu klein,  
ei, so sollst du mir allein  
mehr als Welt und Himmel sein.

私はあなたに私の心を捧げます。  
降りてきて下さい、私の救いよ、(私の)中に！  
私はあなたの中に身を沈めます。  
あなたにとってこの世が小さすぎようとも、  
そう、私にはあなただけが  
世界や天よりもまさるべきものなのです。

## オリーブ山での離反の予告

### 第14曲【20】 (26:30-32)

福音史家： Und da sie den Lobgesang gesprochen hatten,  
gingen sie hinaus an den Ölberg.  
Da sprach Jesus zu ihnen:

そして、彼らは賛美の歌を歌ってから、  
オリーブ山へと出かけて行った。  
その時、イエスは彼ら(弟子たち)に言った。

イエス： In dieser Nacht  
werdet ihr euch alle ärgern an mir. ※  
Denn es steht geschrieben:  
Ich werde den Hirten schlagen,  
und die Schafe der Herde  
werden sich zerstreuen.  
Wenn ich aber auferstehe,  
will ich vor euch hingehen in Galiläam.

今夜、  
お前たちは皆、私に躓くだろう。※  
聖書にこう書いてあるからだ。  
「私は羊飼いを打つ。  
すると、群れの羊たちは  
散り散りになるだろう」と。  
しかし、私は復活した時には、 ※旧全集 Wann  
お前たちより先にガリラヤへ行くつもりだ。

※ドイツ語の sich ärgern は「苛立つ」「立腹する」の意味。

「躓(つまず)く」は聖書のギリシア語 skandalizo から。「わなにかかる」「信仰・正道から脱落する」の意味。

### 第15曲【21】 コラール

詞： Paul Gerhardt 「O Haupt voll Blut und Wunden」第5節 旋律：C

Erkenne mich, mein Hüter,  
認めて下さい 私を 私の 牧者よ

私を認めてください、私の牧者よ。

mein Hirte, nimm mich an!  
私の 羊飼いよ 受け入れて下さい 私を

私の羊飼いよ、私を受け入れてください！

Von dir, Quell aller Güter,  
～から あなた 泉 全ての 宝の

すべての宝の泉であるあなたから

ist mir viel Gut's getan.  
私に 多くの 良い事 行われた

私に多くの良いことが行われました。

Dein Mund hat mich gelabet

あなたの 口は (完) 私を 元気づけた

あなたの口は私を元気づけてくれました、

mit Milch und süßer Kost,

～で 乳 と 甘い 食べ物

乳と甘い食べ物によって。

dein Geist hat mich begabet

あなたの 霊は (完) 私に 与えた

あなたの霊は私に与えました、

mit mancher Himmelslust.

多くの 天国の喜びを

多くの天国の喜びを。

## 第 16 曲 【22】 (26:33-35)

福音史家： Petrus aber antwortete und sprach zu ihm:

するとペテロが答えてイエスに言った

ペテロ： Wenn sie auch alle sich an dir ärgerten,  
so will ich doch mich nimmermehr ärgern.

たとえ、皆があなたに躓いても、  
私はあなたに決して躓きません。

福音史家： Jesus sprach zu ihm:

イエスは彼に言った。

イエス： Wahrlich, ich sage dir:  
In dieser Nacht, ehe der Hahn krähet,  
wirst du mich dreimal verleugnen.

まことにお前に言っておく。  
今夜、鶏が鳴く前に、  
お前は三度、私のことを否認するだろう。

福音史家： Petrus sprach zu ihm:

ペテロはイエスに言った。

ペテロ： Und wenn ich mit dir sterben müsste,  
so will ich dich nicht verleugnen.

たとえ、あなたと共に死なねばならなくても、  
私はあなたを決して否認しません。

福音史家： Desgleichen sagten auch alle Jünger.

弟子たちも皆、同じように言った。

## 第 17 曲 【23】 コラール

詞： Paul Gerhardt 「O Haupt voll Blut und Wunden」 第 6 節 旋律： C

Ich will hier bei dir stehen;

私は (意志) ここに の側に あなた 留まる

私はここで、あなたの側に留まっています。

stehen ↔ gehen

verachte mich doch nicht!

軽蔑する 私を ～しないで

どうか私を侮らないで下さい！

Von dir will ich nicht gehen,

～から あなた (意志) 私は ～しない 行く

あなたのもとから私は離れません、

wenn dir dein Herze bricht.

～の時 あなたの 心が 裂ける

あなたの心が張り裂ける時も。

Wenn dein Herz wird erblassen

～の時 あなたの 心が 蒼ざめる

あなたの心が、

im letzten Todesstoß,

～で 最後の 死の 衝撃

最後の死の衝撃で蒼ざめるであろう時

als denn will ich dich fassen

その時には (意志) 私は あなたを しっかり抱く

私はあなたをしっかりと抱きましょう、

in meinen Arm und Schoß.

～で 私の 腕 と 膝・懐

私の腕と膝に。



## ゲッセマネの祈り

### 第18曲【24】(26:36-38)

福音史家： Da kam Jesus mit ihnen zu einem Hofe,  
der hieß Gethsemane,  
und sprach zu seinen Jüngern:

イエスは弟子たちと一緒に  
ゲッセマネという園に来ると、  
弟子たちに言った。

イエス： Setzet euch hie,  
bis dass ich dort hingehge und bete.

ここに座っていなさい、  
わたしが向こうへ行つて祈っている間。

福音史家： Und nahm zu sich Petrum  
und die zween Söhne Zebedäi  
und fing an zu trauern und zu zagen.  
Da sprach Jesus zu ihnen:

そして、ペテロおよび ※ zween は zweien の古語  
二人のゼベダイの子ら連れて行ったが、  
そこで、悲しみ怖れ始めた。  
そして、イエスは彼らに言った。 ※ an\_fangen(〜し始める)

イエス： Meine Seele ist betrübt bis an den Tod,  
bleibet hie und wachet mit mir !

私の魂は死にそうなくらいに悲しい。  
ここに留まり、私とともに目を覚ましていなさい。

### 第19曲【25】レチタティーヴォ(テノール)とコラール

O Schmerz !  
Hier zittert das gequälte Herz;  
wie sinkt es hin, wie bleicht sein Angesicht !  
Der Richter führt ihn vor Gericht.  
Da ist kein Trost, kein Helfer nicht.  
Er leidet alle Höllenqualen,  
er soll vor fremden Raub bezahlen.  
Ach, könnte meine Liebe dir,  
mein Heil, dein Zittern und dein Zagen  
vermindern oder helfen tragen,  
wie gerne blieb ich hier !

ああ、苦痛よ！  
苦しめられた心がここに震えている。 hin\_sinken  
その心は何と崩折れ、御顔は何と蒼ざめているか！  
裁き主は彼を法廷に引き立て、  
そこには慰めも、助ける人もいない。  
彼はあらゆる地獄の責苦に苦しみ、  
他人の盗みの償いをしなくてはならない。  
ああ、私の愛が、できるなら、  
私の救いよ、あなたの震えと怖れを、  
和らげるか、支え助けることができるなら、  
私はどんなに喜んでここに留まることでしょうか！

<コラール(合唱Ⅱ)> 詞：Johann Heermann「Herzliebster Jesu」第3節 旋律：A

Was ist die Ursach' aller solcher Plagen?  
何ですか 原因 全ての そのような 苦しみの

その全ての苦しみの原因は何ですか？

Ach, meine Sünden haben dich geschlagen;  
ああ 私の 罪が (完) あなたを 打った

ああ、私の罪があなたを打ったのです。

Ich, ach Herr Jesu, habe dies verschuldet,  
私が ああ 主 イエスよ (完) この 罪を犯した

主イエスよ、私がこの罪を犯したのです、

was du erduldet.  
(関代) あなたが 耐えている

あなたが耐えておられるその罪を。

### 第20曲【26】アリア(テノール) & 合唱Ⅱ

Ich will bei meinem Jesu wachen.

私はイエスの側で目覚めていよう。

So schlafen unsre Sünden ein.  
そうすれば 眠りこむ 我々の 罪は

そうすれば私たちの罪は眠りこむ。  
※ ein\_schlafen(眠りこむ)

Meinen Tod büßet seine Seelennot,  
sein Trauren machet mich voll Freuden.

私の死を彼の魂の苦しみが償い、  
彼の悲しみが、私を喜びで満たす。

Drum muss uns sein verdienstlich Leiden  
故に ～に違いない 我々に 彼の 功德ある 受難は

故に、彼の功德ある受難は我々にとって

recht bitter und doch süße sein.  
まことに 苦い そして しかし 甘い である

実に苦いが、また甘くもあるに違いない。

第21曲【27】(26:39)

福音史家： Und ging hin ein wenig,  
fiel nieder auf sein Angesicht  
und betete und sprach:

そしてイエスは、少し進んで行き、  
跪いて顔をひれ伏して、 ※nieder\_fallen(跪く)  
祈って言った。

イエス： Mein Vater, ist's möglich,  
so gehe dieser Kelch von mir;  
doch nicht wie ich will, sondern wie du willst.※

我が父よ、できることなら、  
この杯を私から取り去ってください。  
しかし、私ではなく、あなたの望む通りに。

※旧全集 willst(2人称単数)

第22曲【28】レチタティーヴォ (バス)

Der Heiland fällt vor seinem Vater nieder;  
dadurch erhebt er mich und alle  
von unserm Falle  
hinauf zu Gottes Gnade wieder.  
Er ist bereit,  
den Kelch, des Todes Bitterkeit zu trinken,  
in welchen Sünden dieser Welt  
gegossen sind und hässlich stinken,  
weil es dem lieben Gott gefällt.

救い主は父の御前にひざまずいた。  
それによって彼は、私と全ての人を、  
我々の墮落から  
神の恵みへと、再び、すくい上げてくださる。  
彼は杯を、死の苦みを飲む  
心構えができています。  
その杯には、この世の罪が  
注がれ、厭うべき悪臭を放っているが、  
これを飲むことが、愛する神の意に適うことだから。

第23曲【29】アリア (バス)

Gerne will ich mich bequemen,  
Kreuz und Becher anzunehmen,  
trink' ich doch dem Heiland nach.  
Denn sein Mund,  
der mit Milch und Honig fließet,  
hat den Grund  
und des Leidens herbe Schmach  
durch den ersten Trunk versüßet.

喜んで私は承知しよう、 ※Becherのうち教会用具がKelch  
十字架と杯を受けることを。  
もちろん私は救い主にならって、それを飲もう。  
なぜなら、彼の口は、  
そこから乳と蜂蜜が流れ出て、  
それが、大地と  
受難の苦い恥辱とを  
最初のひと飲みで、甘くしてくれたのだから。

第24曲【30】(26:40-42)

福音史家： Und er kam zu seinen Jüngern  
und fand sie schlafend und sprach zu ihnen:

そしてイエスは弟子たちのところへ戻り、  
彼らが眠っているのを見て、彼らに言った。

イエス： Könnet ihr denn nicht eine Stunde  
mit mir wachen?  
Wachet und betet,  
dass ihr nicht in Anfechtung fallet!  
Der Geist ist willig,  
aber das Fleisch ist schwach.

さて、お前たちは、ひと時も  
私とともに目を覚ましていられないのか?  
目を覚まして祈っていなさい!  
誘惑に陥らぬように。  
精神はしっかりしていても、  
肉体は弱いものだ。

福音史家： Zum andernmal ging er hin, betete und sprach:

さらにもう一度、奥へ入って行き、祈って言った。

イエス： Mein Vater, ist's nicht möglich,  
dass dieser Kelch von mir gehe,  
ich trinke ihn denn, so geschehe dein Wille.

我が父よ、この杯を私から取り去ることが  
かなわないのであれば、私はそれを飲みます、  
あなたの御心が行われますように。

※ geschehen(起こる、行われる)

第25曲【31】コラール 詞： Albrecht von Preußen(1490-1568,プロイセン公) 旋律： Claudin de Sermisy(仏,1490c.-1562)

Was mein Gott will, das g'scheh' allzeit,  
(関代) 私の 神が 意図する それが 行われる 常に

私の神が意図することが、常に行われますように。

sein Will', der ist der beste,  
彼の 意志 それは 最良である

神の意志、それは最良のものなのです。

zu helfen den'n er ist bereit,  
(不定詞) 助ける (指代) 彼は 備えている

神は、助けようと備えているのです、

die an ihn gläuben feste,  
(関代) 彼を 信ずる 堅く

神を堅く信じる者たちを。

※旧全集 glauben

Er hilft aus Not, der fromme Gott,  
彼は 助ける ~から 苦 誠実な 神

彼は苦しみから助けてくれる、誠実な神、

und züchtiget mit Maßen.  
そして 懲らしめる ~をもって 節度

そして節度をもって懲らしめもする。

Wer Gott vertraut, fest auf ihn baut,  
(関代) 神を 信頼する 堅く ~の上に 彼 建てる

神を信頼し、しっかりと神を礎とする人、

den will er nicht verlassen.  
(関代) だろう 彼は ~ない 見捨てる

その人を、神は見捨てないでしょう。

## イエス捕縛

### 第26曲【32】(26:43-50)

福音史家： Und er kam und fand sie aber schlafend,  
und ihre Augen waren voll Schlaf's.  
Und er ließ sie und ging abermal hin  
und betete zum drittenmal  
und redete dieselbigen Worte.  
Da kam er zu seinen Jüngern  
und sprach zu ihnen:

イエスが戻ると、弟子たちが眠っているのを見た。  
彼らの眼は眠気でいっぱいだったのだ。  
そこでイエスは彼らから離れ、また奥へ入って行き、  
三度も祈り、  
同じ言葉を語った。  
それからイエスは、弟子たちのところに戻って来て、  
彼らに言った。

イエス： Ach! wollt ihr nun schlafen und ruhen? ※  
Siehe, die Stunde ist hie,  
dass des Menschen Sohn  
in der Sünder Hände überantwortet wird.  
Stehet auf, lasset uns gehen!  
Siehe, er ist da, der mich verrät!

ああ、お前たちはまだ眠り休むつもりなのか? ※  
見よ、時が来た。  
人の子が  
罪人の手に引き渡される時だ。  
立て、行こう!  
見よ、わたしを裏切る者がそこにいる!

※このイエスの言葉1行目、ギリシア聖書の原文は「あとは眠って休むがよい」である。

福音史家： Und als er noch redete, siehe,  
da kam Judas, der Zwölfen einer,  
und mit ihm eine große Schar  
mit Schweren und mit Stangen  
von den Hohenpriestern  
und Ältesten des Volks.  
Und der Verräter hatte ihnen  
ein Zeichen gegeben und gesagt:  
„Welchen ich küssen werde, der ist's,  
den greifet!“  
Und alsbald trat er zu Jesu und sprach:

イエスがまだ話しているうちに、見よ、  
十二人の一人であるユダがやって来た。  
そして彼とともに大勢の群衆が  
剣や棒を持ってやって来た。  
祭司長たちや民の長老たちが  
遣わしたのである。  
この裏切り者(ユダ)は、前もって、  
彼ら(群衆)に合図を与えて、こう言っていた。  
「わたしが口づけするのが、その人だ。  
それを捕まえろ」と。  
ユダはすぐにイエスに近寄り、言った。

ユダ： Gegrüßet seist du, Rabbi!

挨拶を受けて下さい、先生!

※ seist (sein の2人称単数接続法、要求・願望)

福音史家： Und küssete ihn. Jesus aber sprach zu ihm:

そして彼に口づけした。イエスは彼に言った。

イエス： Mein Freund, warum bist du kommen? ※

我が友よ、なぜあなたは来たのか? ※

※ギリシア語聖書原文では「友よ、お前はこのために来たのか」である。「この」に当たる関係代名詞を疑問詞と解釈して  
ルター訳・口語訳は「なぜ(何のために)来たのか」としている。しかし、フランス・カトリック訳、英語NEB、新共同訳の  
「しようとしていることをするがよい」は作文しすぎ。「するがよい」などという意味は書かれていない。(田川建三氏による訳註参照)

福音史家： Da traten sie hinzu und legten die Hände an Jesum und griffen ihn. すると人々は進み寄り、イエスに手をかけて捕らえた。

第 2 7 a 曲 【33】 二重唱 (ソプラノ・アルト) & 合唱 II

So ist mein Jesus nun gefangen. こうしてイエスは今や捕らえられてしまった。

Lasst ihn, haltet, bindet nicht ! 彼を放せ、やめろ、縛るな !  
放せ 彼を やめろ 縛るな

Mond und Licht ist vor Schmerzen untergegangen, 月も光も心痛のため沈んでしまった。  
weil mein Jesus ist gefangen. 私のイエスが捕らえられてしまったから。  
Sie führen ihn, er ist gebunden. 彼らはイエスを連行し、彼は縛られてしまった。

第 2 7 b 曲 二重合唱

Sind Blitze, sind Donner 稲妻と雷鳴は  
(完) 稲妻 (完) 雷鳴

in Wolken verschwunden? 雲のなかに消えてしまったのか?  
~の中に 雲 消えてしまった

Eröffne den feurigen Abgrund, o Hölle, 火の深淵を開け、おお地獄よ!  
~を開け 火の 深淵を 地獄よ

zertrümmre, verderbe, 粉々に打ち砕け、 破壊せよ、  
粉々に打ち砕け 破壊せよ

verschlinge, zerschelle 飲み込んでしまえ、 粉々にしてしまえ、  
飲み込め 粉々に砕け

mit plötzlicher Wut 突然の激しい怒りでもって、  
~で 突然の 激しい怒り

den falschen Verräter, 偽りの裏切り者を!  
偽りの 裏切り者を

das mörderische Blut! 殺人者の血統を!  
殺人者の 血統を

第 2 8 曲 【34】 (26:51-56)

福音史家： Und siehe, すると見よ、 ※ヨハネ福音書ではペテロと明記。  
einer aus denen, die mit Jesu waren, イエスと一緒にいた者の一人が※、  
reckete die Hand aus 手を伸ばして(剣を抜き)、  
und schlug des Hohenpriesters Knecht 大祭司の手下に打ちかかって、  
und hieb ihm ein Ohr ab. 彼の片方の耳を切り落とした。  
Da sprach Jesus zu ihm: そこで、イエスはその(切りかかった)者に言った。

イエス： Stecke dein Schwert an seinen Ort; 剣を鞘(しかるべき場所)に収めなさい。  
denn wer das Schwert nimmt, なぜなら、剣を取る者は、  
der soll durchs Schwert umkommen. 剣によって滅びることになっているからである。  
Oder meinst du, それともお前は、  
dass ich nicht könnte meinen Vater bitten, 私が父にお願いできないと思っているのか?  
dass er mir zuschickte (私がお願いすれば)、父は  
mehr denn zwölf Legion Engel? 十二軍団以上の天使たちを送ってくださるであろう。  
Wie würde aber die Schrift erfüllet? しかしそれでは、聖書はどうして実現されようか?  
Es muss also gehen. こうならなければならないのだ。

福音史家： Zu der Stund' sprach Jesus zu den Scharen:

またその時、イエスは群衆に対して言った。

イエス： Ihr seid ausgegangen als zu einem Mörder,  
mit Schwerten und mit Stangen, mich zu fahen;  
bin ich doch täglich bei euch gesessen  
und habe gelehret im Tempel,  
und ihr habt mich nicht gegriffen.  
Aber das ist alles geschehen,  
dass erfüllet würden die Schriften der Propheten.

あなたたちは、まるで殺人者に対するように、  
剣や棒を持って、私を捕らえにやって来た。  
私は毎日、あなたたちの側に座って、  
神殿の中で教えていたのに、  
あなたたちは私を捕らえなかったではないか。  
しかし、この全てのことが起こったのは、  
預言者たちの書いたことが実現するためなのだ。

福音史家： Da verließen ihn alle Jünger und flohen.

すると弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げ去った。

## 第29曲【35】 コラール

詞：Sebald Heyden(1499-1561) 旋律：Matthias Greitter(1495-1550)

O Mensch, bewein dein' Sünde groß,

おお 人よ 嘆き悲しめ 汝の 罪が 大きい

おお人よ、汝の罪の大きいことを嘆け。

darum Christus sein's Vaters Schoß

それ故 キリストは 彼の 父の 懐から

そのためにキリストは父の懐から

äußert und kam auf Erden;

現れる 来た 地上に

現れ、地上に降りて来られたのだ。

von einer Jungfrau rein und zart

～から 一人の 乙女 純粋な 優しい

純粋な優しい乙女から、

für uns er hie geboren ward,

～のため 我々 彼は ここに 生まれた (完)

私たちのためにこの世に生まれて、

er wollt' der Mittler werden.

彼は ～しようとした 仲介者 ～になる

仲介者になろうとされたのである。

Den Toten er das Leben gab

死者(複数3格)に 彼は 生命を 与えた

彼は死者たちに生命を与え、

und legt' dabei all' Krankheit ab,

取り去った そこから 全ての 病気を

彼らからすべての病を取り去って下さった。

※ ab legen(取り去る)

bis sich die Zeit herdrange,

～まで 時が こちらに迫って

時が迫るまで。

※ herdrange...her こちらに、Drang 急迫

dass er für uns geopfert würd',

彼が 我々のために 犠牲にする (受動)

(時が来て) 彼は、私たちのために犠牲となり、

trüg' unsrer Sünden schwere Bürd'

背負う 我々の 罪の(単数2格) 重い 負担

私たちの罪の重荷を背負って下さった。

wohl an dem Kreuze lange.

十分に ～において 十字架 長く

十字架上において長い間、十分に。

※ 1727年第1稿では「Jesus laß ich nicht von mir(イエスを私から離しません)」の単純なコラールで第1部を終結させていた。

当曲は、1725年「ヨハネ受難曲」第2稿において冒頭合唱曲として変ホ長調で書かれたが、同第3稿以降では外されたものである。

1736年「マタイ」再演にあたり、この曲をホ長調に移調して、第1部終結合唱とした。

## 第Ⅱ部

### 第30曲【36】 アリア (アルト) & 合唱Ⅱ

Ach, nun ist mein Jesus hin!  
Ist es möglich, kann ich schauen?  
Ach, mein Lamm in Tigerklauen!  
Ach, wo ist mein Jesus hin?  
Ach, was soll ich der Seele sagen,  
wenn sie mich wird ängstlich fragen?  
Ach, wo ist mein Jesus hin?

Wo ist denn dein Freund hingegangen,  
どこに では あなたの 恋人は 行ってしまった

o du Schönste unter den Weibern?  
おお、汝、最も美しい人 ~の中で 女たち

Wo hat sich dein Freund hingewandt?  
どこに あなたの 恋人は 向かった

So wollen wir mit dir ihn suchen.  
それでは しよう 我々は あなたと共に 彼を 探す

ああ、今や私のイエスは行ってしまった！  
私は(彼を)見ることができるのでしょうか？  
ああ、私の子羊は虎の爪にかかってしまった！  
ああ、どこへ私のイエスは行ってしまったのですか？  
ああ、私は魂に何と言ったらよいのでしょうか、  
もし彼女(魂=女性名詞)が私に不安そうに尋ねたら？  
ああ、どこに私のイエスは行ってしまったの？と

どこにあなたの恋人は行ってしまったのですか？

おお、女たちのうちで最も美しい人よ

どこへあなたの恋人は向かったのですか？

※ sich hin\_wenden(向かう)

それでは、我々もあなたと一緒に彼を探しましょう。

※この詞は旧約「雅歌」第6章1節が元歌である。

## 大祭司の審問

### 第31曲【37】 (26:57-60)

福音史家： Die aber Jesum gegriffen hatten,  
führten ihn zu dem Hohenpriester Kaiphas,  
dahin die Schriftgelehrten  
und Ältesten sich versammelt hatten.

Petrus aber folgte ihm nach von ferne  
bis in den Palast des Hohenpriesters  
und ging hinein und setzte sich bei die Knechte,  
auf dass er sähe, wo es hinaus wollte.

Die Hohenpriester aber  
und Ältesten und der ganze Rat  
suchten falsche Zeugnis wider Jesum,  
auf dass sie ihn töteten, und funden keines.

さて、イエスを捕らえた人々は、  
彼を大祭司カイファのところへ連行した。  
そこには律法学者たちや  
長老たちが集まっていた。

一方、ペテロは、大祭司の屋敷まで  
イエスの後を離れてついて行き、  
屋敷の中庭に入って、下僕たちの側に座り、  
ことの成り行きがどこに向かうか見ようとした。

さて、祭司長たち、  
長老たち、そして最高法院の全議員は  
イエスに対する偽りの証拠を求め、  
彼を処刑しようとしたが、何も見つけれなかった。

※ fund は finden(見つける)の過去形 fand の古語

### 第32曲【38】 コラール

詞：Adam Reusner(1496?-1575?) 旋律：Sethus Calvisius(1556-1615)

Mir hat die Welt trüglich gericht'  
私を (完) 世は 詐欺で 裁いた

mit Lügen und mit falschem G'dicht,  
~で 嘘(fp3) と ~で 偽りの 詩(ns3)

viel Netz' und heimlich Stricken.※  
多くの 網(np3) と 秘密の 綱(mp3)

Herr, nimm mein wahr in dieser G'fahr,  
主よ 認めよ 私の (正しさ) ~の中で この 危険

b'hüt mich für falschen Tücken!  
守る 私を 偽りの 悪だくみ

世は私を偽りの裁きにかけた。

嘘と、作り話で、

※ベーレンライター版のみStricke  
だがおそらく誤りであろう。

多くの網と、秘密の綱で。

※ wahr\_nehmen(認める) Wahrheit(真実、正しさ)  
主よ、この危険の中で、私を正しいと認めて、

※ mein(人称代名詞2格の用法、普通は meiner)

私を偽りの策略から守ってください。

第 3 3 曲 【39】 (26:60-63)

福音史家 : Und wiewohl viel falsche Zeugen herzutraten,  
funden sie doch keins.

Zuletzt traten herzu zween falsche Zeugen  
und sprachen:

偽証人 : Er hat gesagt:  
Ich kann den Tempel Gottes abbrechen  
und in dreien Tagen denselben bauen.

福音史家 : Und der Hohepriester stund auf  
und sprach zu ihm:

大祭司 : Antwortest du nichts zu dem,  
das diese wider dich zeugen?

福音史家 : Aber Jesus schwieg stille.

※ herzu(こちらへ、分離前綴) traten(現れる treten の過去形)  
多くの偽証人が現れたにもかかわらず、  
彼らは証拠を全く見つけられなかった。

最後に二人の偽証人が現れて  
言った。

彼はこう言っていました。  
「私は神殿を打ち崩し、  
三日で建てることできる」と。

※ stund は stehen(立つ)の過去形 stand の古語  
そこで大祭司は立ち上がり、  
イエスに言った。

お前はこれに対して何も答えないのか?  
この者たちはお前に対し不利な証言をしているが?

しかしイエスは静かに黙っていた。

第 3 4 曲 【40】 レチタティーヴォ (テノール)

Mein Jesus schweigt  
zu falschen Lügen stille,  
um uns damit zu zeigen,  
dass sein Erbarmens voller Wille  
vor uns zum Leiden sei geneigt,  
und dass wir in dergleichen Pein  
ihm sollen ähnlich sein  
und in Verfolgung stille schweigen.

私のイエスは黙っている、  
偽りの証言に対して静かに。  
それによって、私たちに示すために。  
彼の慈悲に満ちた御心は  
私たちのために受難をする気があることを。  
また、私たちがそのような苦しみを受ける時には、  
イエスと同じように  
迫害の中でも静かに黙っているべきことを。

第 3 5 曲 【41】 アリア (テノール)

Geduld,  
wenn mich falsche Zungen stechen.  
Leid' ich wider meine Schuld  
Schimpf und Spott,  
ei, so mag der liebe Gott  
meines Herzens Unschuld rächen.

耐え忍べ、  
私を偽りの舌が刺すときも。  
私が、(いわれの無い)罪に対して、 ※ leiden(耐える)  
侮辱と嘲りを耐え忍ぶ時、  
ああ、そう、愛する神は ※ rächen(復讐する)  
私の心の無実を報いてくださるだろう。

第 3 6 a 曲 【42】 (26:63-66)

福音史家 : Und der Hohepriester antwortete  
und sprach zu ihm:

大祭司 : Ich beschwöre dich bei dem lebendigen Gott,  
dass du uns sagest,  
ob du seiest Christus, der Sohn Gottes?

福音史家 : Jesus sprach zu ihm:

イエス : Du sagest's.  
Doch sage ich euch:  
Von nun an wird's geschehen,  
dass ihr sehen werdet des Menschen Sohn  
sitzen zur Rechten der Kraft  
und kommen in den Wolken des Himmels.

大祭司は(イエスの沈黙に)答えて  
彼に言った。

私は生ける神に誓ってお前に言う、  
我々に答えよ、  
お前は神の子たるキリストなのかどうか?

イエスは彼に言った。

あなたがそう言っているのだ。  
しかし、わたしはあなた方に言う。  
今より後、起こることだが、  
あなた方は見るだろう、人の子が  
力ある方の右に座り、  
天の雲に乗って来るのを。

福音史家 : Da zerriss der Hohepriester seine Kleider  
und sprach:

そこで、大祭司は自分の服を引き裂いて  
言った。

大祭司： Er hat Gott gelästert;  
was dürfen wir weiter Zeugnis?  
Siehe,  
itzt habt ihr seine Gotteslästerung gehört.  
Was dünket euch?

彼は神を冒瀆した。  
我々はこれ以上の証拠が必要だろうか？  
見よ、  
今あなた方は神への冒瀆を聞いた。  
あなた方には何と思われるか？

福音史家： Sie antworteten und sprachen:

彼らは答えて言った。

### 第36b曲(26:66) 合唱 I II

Er ist des Todes schuldig!

彼は である 死の 罪がある

彼は、死罪だ！

### 第36c曲【43】(26:67-68)

福音史家： Da speieten sie aus in sein Angesicht  
und schlugen ihn mit Fäusten.  
Etliche aber schlugen ihn ins Angesicht  
und sprachen:

※ aus speien(唾を吐く)  
彼らは、イエスの顔に唾を吐き、  
彼を拳で殴った。  
何人かは彼の顔を殴って  
言った。

### 第36d曲(26:68) 二重合唱

Weissage uns, Christe,

判じてみよ 我々に キリストよ

我々に言い当ててみろ、キリストよ。

wer ist's, der dich schlug?

誰か ~の者は お前を 打った

お前を殴ったのは誰か？

### 第37曲【44】 コラール

詞：Paul Gerhardt 「O Welt, sieh hier dein Leben」 第3節 旋律：B

Wer hat dich so geschlagen,

誰が (完) あなたを そのように 打った

誰があなたをこのように打ったのですか？

mein Heil, und dich mit Plagen

私の 救いよ あなたを ~で 苦しみ

我が救いよ、誰があなたを苦しみでもって、

so übel zugericht'?

そのように 悪い ひどい目にあわせた

そんなにもひどい目に合わせたのですか？

※ zu richten(ひどい目にあわせる)

Du bist ja nicht ein Sünder

あなたは ~ではない 罪人

あなたは罪人では決してありません、

wie wir und unsre Kinder;

~のように 我々 我々の 子供ら

私たちや、私たちの子供らのように。

von Missetaten weißt du nicht.

~のことを 悪事 知る あなたは ~ない

あなたは悪事について何も知らないのです。

※ von etw wissen(~について知っている)

## ペテロの否認

### 第38a曲【45】(26:69-73)

福音史家： Petrus aber saß draußen im Palast;  
und es trat zu ihm eine Magd und sprach:

さて、ペテロは屋敷中庭の屋外に座っていた。  
そこへ一人の女中が彼に歩み寄って言った。

女中1： Und du warest auch mit dem Jesu aus Galiläa.

あなたはあのガリラヤのイエスと一緒にいましたね。

福音史家： Er leugnete aber vor ihnen allen und sprach:

しかしペテロは皆の前でそれを否定して言った。

ペテロ： Ich weiß nicht, was du sagest.

あなたが何を言っているのか、私はわからない。



福音史家 : Als er aber zur Tür hinausging,  
sahe ihn eine andere  
und sprach zu denen, die da waren:

ペテロが門の方へ出て行くと、  
また一人の女中が彼を見て、  
そこに居た人々に言った。

女中 2 : Dieser war auch mit dem Jesu von Nazareth.

この人もあのナザレのイエスと一緒にいました。

福音史家 : Und er leugnete abermal und schwur dazu:

ペテロは再び否定して、さらに誓って言った。

ペテロ : Ich kenne des Menschen nicht.

私はその人を知らない。

福音史家 : Und über eine kleine Weile  
traten hinzu, die da stunden,  
und sprachen zu Petro:

少しして、  
そこに立っていた人々が歩み寄ってきて、  
ペテロに言った。 ※旧全集 standen

### 第 3 8 b 曲 (26:73) 合唱 II

Wahrlich, du bist auch einer von denen;

確かに お前は～だ もまた 一人 あの人の

確かに、お前もあの人の一人だ。

denn deine Sprache verrät dich.

なぜなら お前の 話し方・訛りが 裏切っている お前を

なぜならお前の訛りがお前の正体をバラしているぞ。

### 第 3 8 c 曲 【46】 (26:74-75)

福音史家 : Da hub er an,  
sich zu verfluchen und zu schwören:

彼は、 ※ an\_heben (～し始める)  
呪い、また誓い始めた。

ペテロ : Ich kenne des Menschen nicht.

私はその人を知らない。

福音史家 : Und alsbald krähete der Hahn.  
Da dachte Petrus an die Worte Jesu,  
da er zu ihm sagte:  
Ehe der Hahn krähen wird,  
wirst du mich dreimal verleugnen.  
Und ging heraus und weinete bitterlich.

すると直ちに、鶏が鳴いた。 ※ an～denken (～を思い出す)  
ペテロは、イエスの言葉を思い出した。  
イエスは彼にこう言ったのだった。  
「鶏が鳴く前に、  
お前は三度私を否定するだろう」と。  
そしてペテロは外に出て、痛ましく泣いた。

### 第 3 9 曲 【47】 アリア (アルト)

Erbarne dich, mein Gott,  
um meiner Zähren willen !  
Schaue hier,  
Herz und Auge weint vor dir bitterlich.

憐れみ給え、我が神よ  
私の涙ゆえに！ ※ Zähre = Träne の雅語  
ここをご覧ください。  
心も目もあなたの前で痛ましく泣いています。

### 第 4 0 曲 【48】 コラール 詞 : Johann von Rist (1607-77) 「Werde munter, mein Gemüte」第 5 節 旋律 : Johann Schop (1590-1667)

Bin ich gleich von dir gewichen,

私は たとえ～でも あなたから 離れて

私は、たとえあなたから離れても、 ※ weichen 離れ去る  
※ gleich=obgleich, obwohl, ob たとえ～としても

stell' ich mich doch wieder ein;

現れる 私は だがやはり 再び

きつと再び(あなたの元に)戻ってきます。  
※ sich ein\_stellen (～に出現する、到来する)

hat uns doch dein Sohn verglichen

(完) 私たちを あなたの 息子が 仲介した

あなたの御子が私たち※を仲介したのです。

durch sein' Angst und Todespein.

～により 彼の 恐れ 死の苦しみ

彼の怖れと死の苦しみによって。

※「あなた」=神、「私たち」=神と私。御子イエスが、神と私の間を仲介して和解させた。

Ich verleugne nicht die Schuld;

私は 否定しない 罪を

aber deine Gnad' und Huld

しかし あなたの 慈悲 と 恩顧は

ist viel größer als die Sünde,

大変に 大きい ~よりも 罪

die ich stets in mir befinde.

(関代) 私が 常に 私の中に 見いだす

私は罪を否定しません。

しかし、あなたの慈悲と恩顧は、

罪よりはるかに大きいのです、

私が常に私の中に見い出す(罪よりも)。

## ユダの後悔と自殺

### 第4 1 a 曲【49】(27:1-4)

福音史家： Des Morgens aber hielten  
alle Hohenpriester und die Ältesten des Volks  
einen Rat über Jesum, dass sie ihn töteten.

Und bunden ihn, führten ihn hin  
und überantworteten ihn  
dem Landpfleger Pontio Pilato.

Da das sahe Judas, der ihn verraten hatte,  
dass er verdammt war zum Tode,  
gereuete es ihn,  
und brachte herwieder die dreißig Silberlinge  
den Hohenpriestern und Ältesten und sprach:

ユダ： Ich habe übel getan,  
dass ich unschuldig Blut verraten habe.

福音史家： Sie sprachen:

### 第4 1 b 曲(27:4) 二重合唱

Was gehet uns das an? Da siehe du zu!

何が 係わる 我々に それが 見る お前が

### 第4 1 c 曲【50】(27:5-6)

福音史家： Und er warf die Silberlinge in den Tempel,  
hub sich davon, ging hin  
und erhängete sich selbst.  
Aber die Hohenpriester nahmen die Silberlinge  
und sprachen:

祭司長ら： Es taugt nicht,  
dass wir sie in den Gotteskasten legen,  
denn es ist Blutgeld.

第4 2 曲【51】 アリア(バス) ※ルカ福音書 15 章の放蕩息子としてユダを解釈する歌詞であり、ユダを救済・復権している。

Gebt mir meinen Jesum wieder!  
Seht, das Geld, den Mörderlohn,  
wirft euch der verlorne Sohn  
zu den Füßen nieder!

※ verloren (verlieren の過去分詞) 見失われた、迷い込んだ

さて、夜が明けると、  
全ての祭司長たちと民の長老たちは、  
イエスについて協議をして、彼を殺そうとした。

※ bund は binden(縛る)の過去形 band の古語

そしてイエスを縛って連行していき、  
彼を総督ポンティオ・ピラトに  
引き渡した。

そのころ、イエスを裏切ったユダは、  
イエスが死の弾劾を受けたのを見て、  
後悔し、

※ gereuen(後悔させる)(それは彼を後悔させた)

銀貨三十枚を祭司長たちや長老たちに  
返そうと持って行き、言った。

※ her\_bringen(持ってくる), wieder\_bringen(返す)

私は悪事を行ってしまいました。  
罪の無い人の血を裏切って売り渡したのです。

彼らは言った。

後で出てくるピラトの言葉と相似なので、田川建三氏はギリシア語

直訳で、どちらも「自分で見るがよい」と訳し、意訳なら新共同訳

の「お前の問題だ」がよいと書いている。

それが我々に何の関係がある？自分で見るがよい！

※ an\_sehen(係わる)

zu\_sehen ※

そこで、ユダは銀貨を神殿に投げ込んで、  
そこから立ち去って行き、  
自ら首をつって死んだ。  
祭司長たちは銀貨を取って、  
言った。

これは  
神殿の献金箱に入れるのには適さない。  
なぜならそれは血の代金だから。

私のイエスを返せ！

見よ、この金の人殺しの報酬だ。

※放蕩息子はお前たちの足元に

(その金を)投げ捨てたではないか！

nieder\_werfen 投げ捨てる

### 第43曲【52】(27:7-10)

福音史家： Sie hielten aber einen Rat  
und kauften einen Töpfersacker  
darum zum Begräbnis der Pilger.  
Daher ist derselbige Acker genennet  
der Blutacker bis auf den heutigen Tag.  
Da ist erfüllet,  
das gesagt ist durch den Propheten Jeremias,  
da er spricht:  
„Sie haben genommen dreißig Silberlinge,  
damit bezahlet ward der Verkaufte,  
welchen sie kauften von den Kindern Israel,  
und haben sie gegeben um einen Töpfersacker,  
als mir der Herr befohlen hat.“

彼らは協議をして、  
(その金で)「陶工の畑」を買った。  
巡礼者の埋葬地にするためである。  
この事から、その畑は  
今日に至るまで「血の畑」と呼ばれている。  
こうして  
預言者エレミヤを通して語られたことが実現した。  
エレミヤはこう語っている。  
「彼らは銀貨三十枚を取り、  
それによって売られた者の代金を支払った。(売られた者は)  
彼らがイスラエルの子から買った者のことである。  
彼らは陶工の畑の代金を支払ったのである。  
主が私に命じたように。」と。  
※ um(～の価格を)

### 総督ピラトの尋問と判決 (27:11-14)

Jesus aber stund vor dem Landpfleger;  
und der Landpfleger fragte ihn und sprach:

さて、イエスは総督の前に立った。  
総督はイエスに問うて言った。

ピラト： Bist du der Jüden König?

お前はユダヤ人の王なのか? ※旧全集 Juden

福音史家： Jesus aber sprach zu ihm:

イエスは総督に言った。

イエス： Du sagest's.

あなたがそう言っているのだ。

福音史家： Und da er verklagt war ※  
von den Hohenpriestern und Ältesten,  
antwortete er nichts.  
Da sprach Pilatus zu ihm:

イエスは祭司長や長老たちから ※旧全集 ward  
訴えられていたが、  
何も答えなかった。  
するとピラトはイエスに言った。

ピラト： Hörest du nicht,  
wie hart sie dich verklagen?

お前は聞こえないのか、  
どんなに厳しく彼らがお前を告発しているか?

福音史家： Und er antwortete ihm nicht auf ein Wort,  
also, dass sich auch  
der Landpfleger sehr verwunderte.

だがイエスは彼に一言も答えなかった。  
それ故また、  
総督は大変不思議に思った。

### 第44曲【53】 コラール 詞： Paul Gerhardt 「Befiehl du deine Wege」第1節 本来は別旋律だが、ここでは C旋律で歌われる。

Befiehl du deine Wege

委ねよ お前は お前の 道を

委ねよ、お前は、お前の道と、

※ befehen の命令形

und was dein Herze kränkt

(関代) お前の 心を 傷つけている

お前の心を傷つけていることを、

der allertreusten Pflege

全く誠実な 加護に

全く誠実なご加護に

des, der den Himmel lenkt.

(関代) (指代) 天を 操縦する・御する

天を統べる方のご加護に。

Der Wolken, Luft und Winden

(指代) 雲に 大気に そして 風に

その方は雲に、大気に、そして風に対して、

gibt Wege, Lauf und Bahn,

与える 道 道筋 軌道を

道、道筋、軌道を与えてくださる。

der wird auch Wege finden,  
(指代) だろう また 道を 見つける

その方が新たな道を見つけてくれるだろう、

da dein Fuß gehen kann.  
そこを お前の 脚が 行く できる

お前の脚が歩むことのできる道を。

#### 第 4 5 a 曲 【54】 (27:15-22)

福音史家 : Auf das Fest aber  
hatte der Landpfleger Gewohnheit,  
dem Volk einen Gefangenen loszugeben,  
welchen sie wollten.  
Er hatte aber zu der Zeit einen Gefangenen,  
einen sonderlichen vor andern,  
der hieß Barrabas.  
Und da sie versammelt waren,  
sprach Pilatus zu ihnen:

さて、祭の間、  
総督には慣習があった。  
民衆が希望する囚人を一人  
釈放するというものである。  
そのころ、  
他の者よりも特別な(悪い)囚人がいた。  
彼の名はバラバといった。  
人々が集まって来た時、  
ピラトは彼らに言った。

ピラト : Welchen wollet ihr, dass ich euch losgebe?  
Barrabam oder Jesum,  
von dem gesagt wird, er sei Christus?

お前たちは私がどちらを釈放することを望むか?  
バラバか、  
それともキリストであると言われているイエスか?

福音史家 : Denn er wusste wohl,  
dass sie ihn aus Neid überantwortet hatten.  
Und da er auf dem Richtstuhl saß,  
schickete sein Weib zu ihm und ließ ihm sagen:

というのは、ピラトはよく分かっていたのである。  
彼らがイエスを引き渡したのは嫉みからだ。  
また、ピラトが裁判の席に座っている時に、  
彼の妻が彼に使者を遣わして、彼に言わせた。

※ schicken(使者を遣わす)

ピラト妻 : Habe du nichts zu schaffen  
mit diesem Gerechten;  
ich habe heute viel erlitten  
im Traum von seinetwegen!

あの正しい人と、  
事を構えないでください。 ※ schaffen(事を為す、働く)  
彼のせいで、私は昨夜 (日没以後が"今日"なので heute)、  
夢の中で大変な苦痛を受けました。 ※ seinetwegen(彼のために)

福音史家 : Aber die Hohenpriester und die Ältesten  
überredeten das Volk,  
dass sie um Barrabas bitten sollten  
und Jesum umbrächten.  
Da antwortete nun der Landpfleger  
und sprach zu ihnen:

しかし、祭司長たちや長老たちは、  
群衆を説得していた。  
バラバの(釈放の)ために請願すべきだ、  
そしてイエスを殺そう、と。 ※ umbringen(殺す)<sup>3</sup> 単過接 II  
さて、総督は答えて  
彼らに言った。

ピラト : Welchen wollt ihr unter diesen zweien,  
den ich euch soll losgeben?

この二人のうち、お前たちは、  
私がどちらを釈放すべきと主張するのか?

福音史家 : Sie sprachen:

彼らは言った。

合唱 I II : Barrabam !

バラバを !

福音史家 : Pilatus sprach zu ihnen:

ピラトは彼らに言った。

ピラト : Was soll ich denn machen mit Jesu,  
von dem gesagt wird, er sei Christus?

では、キリストであると言われるイエスについては、  
私はどうすべきなのか?

福音史家 : Sie sprachen alle:

彼らはこぞって言った。

#### 第 4 5 b 曲 (27:22) 合唱 I II

Lass ihn kreuzigen!  
彼を 十字架につける

彼を十字架につける !

第46曲【55】 コラール

詞：Johann Heermann 「Herzliebster Jesu」 第4節 旋律：A

Wie wunderbarlich ist doch diese Strafe ! それにしても何と驚くべきことだ、この刑罰は！  
何という 驚くべき・不思議な それにしても この 刑罰は

Der gute Hirte leidet für die Schafe, よい羊飼いが羊のために苦しみを受け、  
良い 羊飼いは 苦しみを受け 羊のために

die Schuld bezahlt der Herre, 正しい人である主が  
罪・責任 負債を支払う 主が

der Gerechte, für seine Knechte. 彼の下僕のために、罪の償いをするとは！  
正しい人 ~のために 彼の 下僕

第47曲【56】 (27:23)

福音史家： Der Landpfleger sagte:

総督は言った。

ピラト： Was hat er denn Übels getan?

いったい彼が何の悪事を行ったというのか？

第48曲【57】 レチタチーヴォ (ソプラノ)

Er hat uns allen wohlgetan,  
den Blinden gab er das Gesicht,  
die Lahmen macht' er gehend,  
er sagt' uns seines Vaters Wort,  
er trieb die Teufel fort,  
Betrübte hat er aufgerichtet',  
er nahm die Sünder auf und an.  
Sonst hat mein Jesus nichts getan.

※ wohl\_tun(元気づける)  
彼は我々皆を元気づけてくれました。  
彼は目の見えない人に視覚を与え、  
麻痺した人を歩いて行かせました。  
彼は私たちに彼の父の言葉を語り、  
悪魔を追い払い、  
悲しむ人を元気づけ、  
罪人を迎え入れました。  
それ以外に私のイエスは何もなさいませんでした。

※ auf\_nehmen, an\_nehmen(受け入れる)

第49曲【58】 アリア (ソプラノ)

Aus Liebe will mein Heiland sterben,  
von einer Sünde weiß er nichts,  
dass das ewige Verderben  
und die Strafe des Gerichts  
nicht auf meiner Seele bliebe.

愛ゆえに、私の救い主は死のうとしておられます。  
彼は一つの罪も知らないのに。  
永遠の破滅と  
裁きの刑罰が  
私の魂の上にとどまらないように、と。

第50a曲【59】 (27:23)

福音史家： Sie schrieen aber noch mehr und sprachen:

しかし、群衆はさらに一層、叫んで言った。

第50b曲(27:23) 合唱 I II

Lass ihn kreuzigen!  
彼を 十字架につける

彼を十字架につける！

第50c曲(27:24-25)

福音史家： Da aber Pilatus sahe, dass er nichts schaffete,  
sondern dass ein viel größer Getümmel ward,  
nahm er Wasser und  
wusch die Hände vor dem Volk und sprach:

ピラトは、自分には何も事を切り抜けるすべはなく、  
かえってより大きな騒動が起こりそうだ、と見て、  
水を取り、  
民衆の前で両手を洗って、言った。

ピラト： Ich bin unschuldig  
an dem Blut dieses Gerechten, sehet ihr zu.

この正しい人の血について、  
私には責任がない。お前たち、自分で見るがよい。

※ zu\_sehen(前出)

福音史家： Da antwortete das ganze Volk und sprach:

すると民衆全員が答えて言った。

第50d曲(27:25) 合唱 I II

Sein Blut komme über uns und unsre Kinder.

彼の 血よ 襲え(命令形) 我々 と 我々の 子孫を

彼の血は、我々とその子孫を襲うがいい。

über 4格 kommen 襲う

鞭打ち

第50e曲(27:26)

福音史家： Da gab er ihnen Barrabam los;  
aber Jesum ließ er geißeln  
und überantwortete ihn,  
dass er gekreuziget würde.

そこで、ピラトは彼らにバラバを釈放してやり、  
一方、イエスを鞭打たせ、  
そして彼を十字架につけるために  
彼らに引き渡した。

第51曲【60】 レチタティーヴォ (アルト)

Erbarm es Gott!  
Hier steht der Heiland angebunden.  
O Geißelung, o Schläg', o Wunden!  
Ihr Henker, haltet ein!  
Erweicht euch der Seelen Schmerz,  
der Anblick solches Jammers nicht?  
Ach ja, ihr habt ein Herz,  
das muss der Martersäule gleich  
und noch viel härter sein.  
Erbarmt euch, haltet ein!

神よ、憐れみを！  
ここに救い主は縛りつけられて立っておられる。  
おお、鞭打ち、殴打、傷！  
お前たち死刑執行人、やめろ！  
魂の痛みは、お前たちの心を動かさないのか？  
このような悲歎の光景は(心を動かさないのか)？  
ああ、そうだ！ お前たちは心を持っていても、  
それは拷問の柱と同じようなもの、  
それよりも一層苛烈なものに違いない。  
お前たちよ、憐れみを持って！ やめろ！

第52曲【61】 アリア (アルト)

Können Tränen meiner Wangen  
nichts erlangen,  
o, so nehmt mein Herz hinein!  
Aber lasst es bei den Fluten,  
wenn die Wunden milde bluten,  
auch die Opferschale sein!

私の頬の涙が  
何の役にも立たないとしても、  
おお、私の心を受け入れてください！  
私の心を、その流れの側で使って下さい、  
その傷が緩やかに血を流す時、  
(その血を受ける)捧げ物の器として！

第53a曲【62】 (27:27-29)

福音史家： Da nahmen die Kriegsknechte des Landpflegers  
Jesum zu sich in das Richthaus  
und sammelten über ihn die ganze Schar  
und zogen ihn aus  
und legeten ihm einen Purpurmantel an  
und flochten eine dornene Krone  
und satzten sie auf sein Haupt  
und ein Rohr in seine rechte Hand  
und beugeten die Knie vor ihm  
und spotteten ihn und sprachen:

それから、総督の兵士たちは、  
イエスを総督官邸の中に引き入れ、  
部隊全員をイエスの周りに集めた。  
そして、イエスの服を脱がして、※ aus\_ziehen(服を脱がす)  
紫の外套を着せ、 ※ an\_legen(~を着せる)  
茨の冠を編んで、  
それを彼の頭に載せ、  
また、右手に葦を持たせて、  
彼の前にひざまずき、  
彼を嘲って言った。

第53b曲(27:29) 二重合唱

Gegrüßet seist du, Jüdenkönig !

挨拶を受けよ お前 ユダヤの王よ

ごきげんよう、ユダヤの王よ！ ※旧全集 Juden-

第53c曲(27:30)

福音史家： Und speieten ihn an und nahmen das Rohr  
und schlugen damit sein Haupt.

また、彼に唾を吐き、葦を取り上げて、  
それで彼の頭を叩いた。

第54曲【63】 コラール

詞：Paul Gerhardt 「O Haupt voll Blut und Wunden」 第1・2節 旋律：C

O Haupt voll Blut und Wunden,  
おお 御頭よ に充ちた 血 と 傷に

おお、血と傷にまみれた御頭よ、

voll Schmerz und voller Hohn,  
に充ちた 苦痛 と たくさんの 嘲笑に

苦痛と、嘲笑に充ちた(御頭よ)、

o Haupt, zu Spott gebunden  
おお 御頭よ 嘲りのために 縛られた

おお、嘲りのために

mit einer Dornenkrone,  
～で 茨の冠

茨の冠で縛られた御頭よ、

o Haupt, sonst schön gezieret  
おお 御頭よ さもなければ 美しく 飾られた

おお、御頭よ、さもなければ美しく

mit höchster Ehr' und Zier,  
～で 最高の 栄誉 と 装飾(誇り)※(雅)Zierde

最高の栄誉と誇りで飾られていたのに、

jetzt aber hoch schimpfieret,  
今や しかし 甚だしく 誹謗された

今や甚だしく辱められた(御頭よ)、

gegrüßet seist du mir!  
挨拶を受けて下さい あなたは 私の

私の心からの挨拶を受け入れてください。

Du edles Angesichte,  
汝 高貴な 御顔よ

汝、気高き御顔よ、

dafür sonst schrickt und scheut  
それに対し さもなければ 畏怖し そして 驚く

いつもなら世の権威すらも

※旧全集 dafür ではなく vor dem

das große Weltgewichte,  
大きな 世の権威が

(あなたの御顔に) 畏怖し驚くものを。

wie bist du so bespeit,  
こんなにも あなたは 唾をかけられ、

あなたはかくも唾をかけられ、

wie bist du so erbleichet!  
何と あなたは 蒼ざめている

何と蒼ざめておられることか!

Wer hat dein Augenlicht,  
誰が (完) あなたの 眼の輝きを

あなたの眼の輝き、

dem sonst kein Licht nicht gleicht,  
(関代) さもなければ どの光も 匹敵するものはない

それは本来、どんな光とも比べられないものなのに、

※二重否定の形だが肯定ではない(文法的にはおかしい)

so schändlich zugericht'?  
そんなにも 卑劣に 損ねたのか

誰が、そんなにも卑劣に損ねたのですか?

※ zu\_richten (損ねる、ひどい目にあわせる)

## ゴルゴタ・十字架

### 第55曲【64】(27:31-32)

福音史家： Und da sie ihn verspottet hatten,  
zogen sie ihm den Mantel aus  
und zogen ihm seine Kleider an  
und führten ihn hin, dass sie ihn kreuzigten.  
Und indem sie hinausgingen,  
funden sie einen Menschen von Kyrene  
mit Namen Simon;  
den zwungen sie, dass er ihm sein Kreuz trug.

彼ら(兵士たち)はイエスを嘲弄して、  
外套を脱がせて、  
彼の(元の)服を着せ、 ※an ziehen(着せる)  
彼を十字架につけるために連行して行った。  
彼らは、出て行く時に、  
シモンという名前の ※旧全集 fanden  
キレネ人を見だし、  
彼に強制して、イエスの十字架を担がせた。  
※旧全集 zwingen。zwingen(強いる)の過去形。zwingung は古語

### 第56曲【65】レチタティーヴォ (バス)

Ja freilich will in uns das Fleisch und Blut  
zum Kreuz gezwungen sein;  
je mehr es unsrer Seele gut,  
je herber geht es ein.

そう、もちろん、私たちの中の肉と血は  
十字架につけられることを強えられるだろう。  
私たちの魂にとって良いものほど、  
結局、より苦いものになるのだから。

### 第57曲【66】アリア (バス)

Komm, süßes Kreuz, so will ich sagen,  
mein Jesu, gib es immer her!  
Wird mir mein Leiden einst zu schwer,  
so hilfst du mir es selber tragen.

来たれ甘き十字架よ、そう私は言おう。  
私のイエスよ、それを私にずっと背負わせて下さい。  
いつか、私の苦難が私に重すぎるものになったら、  
私が自分で背負えるよう助けてください。

### 第58a曲【67】(27:33-40)

福音史家： Und da sie an die Stätte kamen  
mit Namen Golgatha,  
das ist verdeutschet Schädelstätt,  
gaben sie ihm Essig  
zu trinken mit Gallen vermischt;  
und da er's schmeckete,  
wollte er's nicht trinken.  
Da sie ihn aber gekreuziget hatten,  
teilten sie seine Kleider  
und warfen das Los darum,  
auf dass erfüllet würde,  
das gesagt ist durch den Propheten:  
„Sie haben meine Kleider unter sich geteilet,  
und über mein Gewand  
haben sie das Los geworfen.“  
Und sie saßen allda und hüteten sein.  
Und oben zu seinen Häupten hefteten sie  
die Ursach' seines Todes beschrieben, nämlich:  
„Dies ist Jesus, der Jüden König.“  
Und da wurden zween Mörder  
mit ihm gekreuziget,  
einer zur Rechten und einer zur Linken.  
Die aber vorübergingen, lästerten ihn  
und schüttelten ihre Köpfe und sprachen:

そして彼らは、  
ゴルゴタという名の、  
翻訳すると「されこうべの場所」という所に来ると、  
イエスに、胆汁を混ぜた酢(になった葡萄酒)を  
与え飲ませようとしたが、 ※Essig(酢)、Gallen(胆汁)  
イエスはなめただけで、  
飲もうとはしなかった。  
さて、彼らはイエスを十字架につけると、  
彼の服を分け、  
そのために籤を引いた。  
それは、預言者によって語られたことが  
実現するためであった。  
「彼らは私の服を分け合い、  
私の衣服のことで  
籤を引いた」と。  
そして彼らはそこに座って見張りをした。  
イエスの頭の上には、  
彼の死罪の理由が書かれたものを掲げた。すなわち、  
「これはイエス、ユダヤ人の王である」と。  
その時、二人の殺人者が ※旧全集 Juden  
イエスとともに十字架につけられていた。  
一人は右に、もう一人は左に。  
さて、そこを通りかかった人々は、イエスを罵り、  
頭を振って※、言った。

※十字架にかけられる人には「麻酔作用のある飲物」を差し出すのが通例だった。マルコ福音書では「没薬入りの葡萄酒」がイエスに差し出されたが、イエスはそれを受けなかったと書かれている。それはイエスが苦痛を引き受ける覚悟だったことを示すとされている。

しかしマタイでは「胆汁を混ぜた葡萄酒(ギリシア語原文)」「胆汁を混ぜた酢(ルター訳)」が与えられた。これはイエスに対する悪意あるいじめである。

※ werfen(投げる)=賽を投げる、werfen は3複過去 warfen の古形か?、完了分詞 geworfen

※詩篇 22:8「私を見る者は皆、私を嘲笑い、唇を突き出し、頭を振って言う」→メサイア第27曲



第58b曲(27:40) 二重合唱

Der du den Tempel Gottes zerbrichst

(関代) お前 神殿を 打ち壊し

神殿を打ち倒し、

und bauest ihn in dreien Tagen,

建てる それを 三日間で

三日でそれを建てる者よ。

hilf dir selber!

救え お前 自身を

自分を救ってみろ！

Bist du Gottes Sohn,

であるなら お前が 神の 子

お前が神の子なら、

so steig herab vom Kreuz!

それなら 降りよ から 十字架

十字架から降りて来い！

※ steigen(昇る)→ herab\_steigen(降りる)

第58c曲(27:41)

福音史家： Desgleichen auch  
die Hohenpriester spotteten sein,  
samt den Schriftgelehrten und Ältesten,  
und sprachen:

同じように、  
祭司長たちもまた、  
律法学者や長老たちと一緒に、(イエスを)嘲って  
言った。

第58d曲(27:42-43) 二重合唱

Andern hat er geholfen

他人を (完) 彼は 救った

あの男は他人のことは救ったのに、

und kann ihm selber nicht helfen.

できる ※彼自身を ~ない 救う

自分自身を救えない。

※旧全集 ihm ではなく sich

Ist er der König Israel,

である 彼が 王 イスラエルの

イスラエルの王なら、

so steige er nun vom Kreuz,

ならば 降りよ 彼は 今 ~から 十字架

今すぐ十字架から降りてこい。

so wollen wir ihm glauben.

ならば (意志) 我々は 彼を 信ずる

そうすれば信じてやろう。

Er hat Gott vertrauet,

彼は 神を 信頼している※

彼は、神を信頼している。

der erlöse ihn nun, lüsted's ihn; denn

(関代) 救え(命令) 彼を 今 ※望む 神が なぜなら

神よ、お望みなら、今すぐ彼を救ってやれ。なぜなら、  
※

er hat gesagt: Ich bin Gottes Sohn.

彼は 言っていた 私は 神の 子

彼はこう言っていたのだから。「私は神の子だ」と。

※古語 lüsten...非人称動詞。es lüsted 4格~で「~が望む」。

ここでは「lüsted es ihn」の ihn は「神」をさすので、「神がお望みならば」となる(倒置による仮定法)。

※詩篇 22:9「彼は主が救ってくれると信じていた。主が望むなら、主に彼を救わせよ」→メサイア第28曲

第58e曲【68】(27:44)

福音史家： Desgleichen schmäheten ihn auch die Mörder,  
die mit ihm gekreuziget waren ※.

一緒に十字架につけられた殺人者たちもまた、  
同じようにイエスを誹謗した。

※旧全集では wurden

第59曲【69】 レチタティーヴォ (アルト)

Ach Golgatha, unsel'ges Golgatha!  
Der Herr der Herrlichkeit  
muss schimpflich hier verderben,  
der Segen und das Heil der Welt  
wird als ein Fluch ans Kreuz gestellt.  
Der Schöpfer Himmels und der Erden  
soll Erd und Luft entzogen werden.  
Die Unschuld muss hier schuldig sterben,  
das gehet meiner Seele nah.  
Ach Golgatha, unsel'ges Golgatha!

ああゴルゴタよ、呪われたゴルゴタよ！  
栄光の主は  
ここで屈辱的に死なねばならない。  
この世の祝福と救いは  
十字架に呪いとして架けられた。  
天と地の創造者は、  
大地と大気を奪われることになる。  
無罪の人がここで有罪で死ななければならず、  
それが私の魂を※悲しませるのだ。 ※ nahe\_gehen  
ああゴルゴタよ、呪われたゴルゴタよ！

第60曲【70】 アリアと合唱Ⅱ

Sehet, Jesus hat die Hand,  
uns zu fassen, ausgespannt. Kommt!

見よ、イエスは、私たちが抱こうと、  
その手を広げました。来なさい！

Wohin ?

どこへ？

In Jesu Armen  
sucht Erlösung, nehmt Erbarmen, suchet

イエスの腕の中へ。  
救いを求め、憐れみを受けよ。求めよ！

Wo ?

どこに？

in Jesu Armen!  
Lebet, sterbet, ruhet hier,  
ihr verlassnen Küchlein ihr, bleibet

イエスの腕の中に。  
ここで、生き、死に、憩いなさい。  
汝が見捨てられた雛鳥たちよ。留まりなさい！

Wo ?

どこに？

in Jesu Armen!

イエスの腕の中に

※この詞は、十字架上のイエスが腕を広げて我らを抱こうとしているかのようなイメージを描いている。ここで冒頭合唱と同じく、  
第1合唱（シオンの娘）に属するアルトが、第2合唱（信ずる者たち）と、そのイメージを共有しようと呼びかけている。

## イエスの死

第61a曲【71】 (27:45-47)

福音史家： Und von der sechsten Stunde an  
war eine Finsternis über das ganze Land  
bis zu der neunten Stunde.  
Und um die neunte Stunde  
schrie Jesus laut und sprach:

さて、第6時(=正午)から後、※ von ~ an(～から後)  
暗闇が全地を覆い、 ※旧全集 ward  
それが第9時(=午後三時)まで続いた。  
第9時頃、  
イエスは大声で叫んで言った。

イエス： Eli, Eli, lama asabthani?

エリ、エリ、ラマ、サバクタニ？

※ラテン語聖書では Eli, Eli, lamma sabacthani? マルコ福音書では Eloi, Eloi とイエスの日常語であったアラム語で語っているが、  
マタイ福音書はそれをヘブライ語に直している。しかしルター訳はその区別をしていない。

福音史家： Das ist: Mein Gott, mein Gott,  
warum hast du mich verlassen?

これは、「わが神よ、わが神よ、  
なぜ私を見捨てたのですか？」という意味である。

Etliche aber, die da stunden,  
da sie das höreten, sprachen sie:

だが、そこに立っていた何人かは、  
これを聞いて、言った。

第61b曲(27:47) 合唱Ⅰ

Der rufet dem Elias !  
(指代) 呼びかけている エリヤに

彼はエリヤに呼びかけているのだ！  
※ j-m rufen(3格支配、～に呼びかける)

第6 1 c 曲 (27:48-49)

福音史家： Und bald lief einer unter ihnen,  
nahm einen Schwamm und füllte ihn mit Essig  
und steckte ihn auf ein Rohr und tränkte ihn.  
Die andern aber sprachen.

するとすぐに彼らの一人が走りよって、  
海綿を取って酢(になった葡萄酒)を含ませ、  
それを葦の先に付けて差しだし、彼に飲ませた。  
だが、他の人々は言った。

第6 1 d 曲 (27:49) 合唱 II

Halt ! Lass sehen,  
待て 見よう

待て！見ていよう。

ob Elias komme und ihm helfe ?

エリアが来て彼を救うかどうかを。

～かどうか エリヤが 来て 彼を 救う

第6 1 e 曲 (27:50)

福音史家： Aber Jesus schrie abermal laut und verschied.

だが、イエスは再び大声で叫び、亡くなった。

第6 2 曲 【72】 コラール

詞： Paul Gerhardt 「O Haupt voll Blut und Wunden」 第9節 旋律：C

Wenn ich einmal soll scheiden,

～の時 私が いつか ～べき 去る

いつか私が(この世から)去るべき時、

so scheide nicht von mir.

その時は 離れないで ～から 私

私から離れないでください。

Wenn ich den Tod soll leiden,

～の時 私が 死 ～べき 苦しむ

私が死に苦しまねばならぬ時、

so tritt du denn herfür !

姿を現せ あなたは ※その時は

その時は、姿を現してください！

herfür = hervor, hervor\_treten 姿を現す、出現する

※ denn →旧全集では dann

Wenn mir am allerbängsten

～の時 私が ～の側で この上ない不安(形→名)

私が、この上ない不安によって

※ mir が意味上の主語

wird um das Herze sein,

～だろう ～の周り 心(4格) (不定)

心を包囲されるであろう時、

so rei mich aus den Ängsten

引きはがせ 私を ～から 不安(複)

私を不安から引きはがして下さい！

kraft deiner Angst und Pein !

力によって※ あなたの 不安の と 苦痛の

あなたの不安と苦痛の力によって。

※前置詞 kraft (～の力によって、2格支配)

第6 3 a 曲 【73】 (27:51-54)

福音史家： Und siehe da,  
der Vorhang im Tempel zerriss in zwei Stück  
von oben an bis unten aus.  
Und die Erde erbebete,  
und die Felsen zerrissen,  
und die Gräber täten sich auf,  
und stunden auf viel Leiber der Heiligen,  
die da schiefen,  
und gingen aus den Gräbern  
nach seiner Auferstehung ※  
und kamen in die heilige Stadt  
und erschienen vielen.

すると見よ、  
神殿の垂れ幕が上から下まで  
真っ二つに裂けた。  
そして大地が震え、  
岩が裂け、  
墓が開いて、 ※ sich auf\_tun (開く)  
そこで眠っていた多くの聖者たちの体が  
目覚め立ち上がった。  
そして、※彼(イエス)の復活の後、  
墓から出て来て、  
聖なる都に行き、  
多くの人々の前に現れた。

※「聖者たちの復活」ならば ihrer Auferstehung。よってここは「イエスの復活」以外に解釈不能

Aber der Hauptmann  
und die bei ihm waren und bewahrenen Jesum,  
da sie sahen das Erdbeben und was da geschah,  
erschranken sie sehr und sprachen:

さて、百人隊長と、  
彼とともにいて、イエスを見張っていた人たちは、  
地震や起こった事を見て、  
大変に驚いて、言った。

### 第 6 3 b 曲 (27:54) 合唱

Wahrlich, dieser ist Gottes Sohn gewesen.

本当に この人は 神の 子 であった

真に、この人は神の子だったのだ。

※この言葉は、マルコ福音書では百人隊長の独白になっている。

## 降架と埋葬

### 第 6 3 c 曲 (27:55-58)

福音史家： Und es waren viel Weiber da,  
die von ferne zusahen,  
die da waren nachgefolget aus Galiläa  
und hatten ihm gedienet,  
unter welchen war Maria Magdalena,  
und Maria, die Mutter Jacobi und Joses,  
und die Mutter der Kinder Zebedäi.  
Am Abend aber kam  
ein reicher Mann von Arimathia,  
der hieß Joseph,  
welcher auch ein Jünger Jesu war,  
der ging zu Pilato  
und bat ihn um den Leichnam Jesu.  
Da befahl Pilatus,  
man sollte ihm ihn geben.

またそこには、大勢の婦人たちがいて、  
遠くから見ていた。  
この婦人たちはガリラヤから(イエスに)従ってきて、  
彼に仕えていたのである。  
その中には、マグダラのマリア、  
ヤコブとヨセフの母マリア、  
ゼベダイの子たちの母がいた。  
さて、夕暮れになり、  
アリマティアの金持ちの男で  
ヨセフという人が来た。  
この人もまたイエスの弟子であった。  
彼はピラトのところに行って、  
イエスの遺体を求めて、ピラトに願い出た。  
そこでピラトは、(man 不定代名詞、誰か然るべき者が)  
ヨセフに(ihm)イエスを(ihn)渡すべし、と命じた。

### 第 6 4 曲 【74】 レチタティーヴォ (バス)

Am Abend, da es kühle war,  
ward Adams Fallen offenbar;  
am Abend drückt ihn der Heiland nieder.  
Am Abend kam die Taube wieder  
und trug ein Ölblatt in dem Munde.  
O schöne Zeit! O Abendstunde!  
Der Friedensschluss ist nun mit Gott gemacht,  
denn Jesus hat sein Kreuz vollbracht.  
Sein Leichnam kömmt zur Ruh,  
ach, liebe Seele, bitte du,  
geh, lasse dir den toten Jesum schenken,  
o heilsames, o köstlich's Angedenken!

夕暮れの涼しい時、  
アダムの墮落は明らかになった。  
夕暮れに、救い主はそれ(その墮落)を克服された。  
夕暮れに、鳩が戻ってきた、  
そして一枚のオリーブの葉を口にくわえていた。  
おお、美しい時よ！ おお、夕暮れの時！  
平和の結末が今、神とともに完成した。  
イエスが十字架を成し遂げたからである。  
彼の亡骸は、安らぎに向かう。  
ああ、愛する魂よ、願うがよい。  
行って、死んだイエスをお前に賜うように。  
おお、救いとなる、貴重な形見よ！

※墮落=Fall(男単1),Fallen(中単1)→次行 ihm(男単4)

※nieder\_drücken(押さえつける)

※「夕暮れ」は、アダムとイブが神に禁断の実を食べたことがばれた時であり(創世記3:8、涼しい時と書かれている)、  
またノアの箱船に鳩がオリーブの葉をくわえて戻った時(同8:11)でもあった。よって夕暮れのイエスの死は、  
罪が明らかになったと同時に救いの時でもある、という詞になっている。

### 第 6 5 曲 【75】 アリア (バス)

Mache dich, mein Herze, rein,  
ich will Jesum selbst begraben.  
Denn er soll nunmehr in mir  
für und für  
seine süße Ruhe haben.  
Welt, geh aus, lass Jesum ein!

私の心よ、汝を清めよ。  
私はイエスを自ら(の内に)葬ろう。  
なぜなら彼は、今や、私の内で  
永遠にいつまでも  
甘い憩いを楽しみ続けるのだから。  
世よ、出て行け。イエスの中へ迎え入れよ！

## 第 6 6 a 曲【76】(27:59-63)

福音史家: Und Joseph nahm den Leib  
und wickelte ihn in ein rein Leinwand  
und legte ihn in sein eigen neu Grab,  
welches er hatte lassen in einen Fels hauen,  
und wälzete einen großen Stein  
vor die Tür des Grabes und ging davon.  
Es war aber allda Maria Magdalena  
und die andere Maria,  
die satzten sich gegen das Grab.  
Des andern Tages,  
der da folget nach dem Rüsttage,  
kamen die Hohenpriester und Pharisäer  
sämtlich zu Pilato und sprachen:

ヨセフはイエスの遺体を受け取ると、  
それをきれいな亜麻布に包み、  
ヨセフ自身の新しい墓の中に横たえた。  
それは彼が岩を掘って作らせたものであった。  
墓の入口には大きな石を転がしておき、  
立ち去った。  
しかし、マグダラのマリアと  
もう一人のマリアはそこにいて、  
墓の方を向いて座っていた。  
明くる日、  
すなわち、「安息日の準備の日」の翌日、※  
祭司長たちとファリサイ派の人々は、  
皆残らず、ピラトのところに来て、言った。

※ Rüsttage 安息日の準備の日=金曜日。その翌日は安息日=土曜日に決まっている。

マタイ著者は、この日にこんな謀議をすることが安息日規定に違反するのでは、と書いてボカした書き方にしたのであろう。

## 第 6 6 b 曲(27:63-64) 合唱 I II

Herr, wir haben gedacht,

総督閣下 私たちは 思い出しました

閣下、私たちは思い出しました。

dass dieser Verführer sprach, da er noch lebete:

この 誘惑者は 言った の時 彼が まだ 生きていた

この誘惑者は生前言っていました、

Ich will nach dreien Tagen wieder auferstehen.

私は だろう ~の後 3日 再び 復活する

「自分は三日後に復活するだろう」と。

Darum befiehl, dass man das Grab verwahre

だから 命じよ (不定代) 墓を 保護する

ですから、命令してください、

bis an den dritten Tag,

~まで 3日目

三日目まで墓を見張るように、と。

auf dass nicht seine Jünger kommen

~するため ~ない 彼の 弟子たちが 来て

そうでないと、弟子たちが来て

und stehlen ihn und sagen zu dem Volk:

盗んで 彼を 語る 民衆に

死体を盗み出し、民衆に言いふらすかもしれません。

Er ist auferstanden von den Toten,

彼は 復活した ~から 死者たち

「イエスは死者の中から復活した」と。

und werde der letzte Betrug

すると なるだろう 最後の 詐欺は

そうなると、今度のその詐欺は、

ärger denn der erste!

より酷く ~よりも 最初

以前よりもっとひどくなるでしょう。

## 第 6 6 c 曲(27:65-66)

福音史家: Pilatus sprach zu ihnen:

ピラトは彼らに言った。

ピラト: Da habt ihr die Hüter;  
gehets hin und verwahret's, wie ihr's wisset!

お前たちには番兵がいるのだから、  
行って墓を見張らせよ。お前たちの思うように。

福音史家: Sie gingen hin  
und verwahreten das Grab mit Hütern  
und versiegelten den Stein.

彼らは行って  
番兵をつけて墓を見張らせ、  
墓の石に封印をした。

## 哀悼

### 第67曲【77】独唱 & 合唱Ⅱ

Baß : Nun ist der Herr zur Ruh gebracht.

今や主は憩いに至りました。

Ten : Die Müh' ist aus,  
die unsre Sünden ihm gemacht.

苦労は終わりました、  
我々の罪が彼にもたらした(苦労は)。

Alt : O selige Gebeine, seht,  
wie ich euch mit Buß und Reu beweine,  
dass euch mein Fall in solche Not gebracht!

おお、聖なる亡骸よ。見よ、如何に私が、  
懺悔と後悔とともに、あなたを悼んでいるかを。  
私の墮落があなたにこんな苦痛をもたらしたのです。

※ euch,euer,ihr(敬意の複数形)

Sop : Habt lebenslang  
vor euer Leiden tausend Dank,  
dass ihr mein Seelenheil  
so wert geacht'.

命ある限りずっと、  
あなたの受難にたくさんの感謝を捧げます。  
あなたは、私の魂の救いを、  
こんなに大切に配慮して下さったのですから。

合唱 : Mein Jesu, gute Nacht !  
私の イエスよ おやすみなさい

私のイエスよ、おやすみなさい！

### 第68曲【78】二重合唱

Wir setzen uns mit Tränen nieder

我々は ひざまずく 涙とともに

私たちは涙してひざまずき ※ nieder\_setzen

und rufen dir im Grabe zu,

呼びかける あなたに 墓の中の

そして、墓の中のあなたに呼びかけます。

Ruhe sanfte, sanfte ruh'!

休め 安らかに 安らかに 休め

安らかにお休みください、安らかに。

Ruht, ihr ausgesognen Glieder!

休め あなた 吸いつくされた 手足

お休みください、疲れ果てた御体よ！

※ aus\_saugen(吸いつくす)の完了分詞

Ruhet sanfte, ruhet wohl!

休め 安らかに 安らかに 心地よく

安らかにお休みください、心地よく。

Euer Grab und Leichenstein

あなたの 墓 と 遺体を覆う石は

あなたの墓と墓石は、

soll dem ängstlichen Gewissen

〜べき [anjst-]不安げな 良心にとって

不安げな良心にとって

ein bequemes Ruhekissen

快適な 憩いの枕

心地よい憩いの枕、

und der Seelen Ruhstatt sein.

魂の 憩いの場 である

魂の憩いの場となるべきもの。

Ruhet sanfte, sanfte ruht!

休め 安らかに 安らかに 休め

安らかにお休みください、安らかに。

Höchst vergnügt

最高に 麗らかに

この上なく麗らかに、

schlummern da die Augen ein.

眠りこむ そこで その眼は

その眼はそこで眠りにつくでしょう。

※ ein\_schlummern(眠り込む、

外から内への方向性を持つ分離前綴 ein)

## あとがきに代えて

### (1). Wahrlich ich sage euch (dir).と Amen

イエスの言葉としてルター訳で Wahrlich ich sage euch (dir).とある場合、その Wahrlich はギリシア語・ラテン語の聖書では「Amen」となっている。(ラテン語ヴルガータ聖書で「Amen dico vobis」、dico=私は言う、vobis=あなた方に)

ヘブライ語の Amen は、ユダヤ教でも、今日のキリスト教でも、他者の言った事に対して同意を示す言葉である。時代劇の「御意」と同じで「仰せの通り」という意味である。

しかしイエスはこの言葉を、こうした腰巾着的な使い方から解放した。まず、自分が何か言った直後に Amen「こうでなくてはならないのだ！」と言い切った。さらには、自分が何か決定的な事を言う前にまず「Amen」と宣言した。これがルターによって Wahrlich と訳されているのである。もちろん「私の福音が宣べ伝えられるところでは云々」などということは実在のイエスは言わなかったろう。しかし Amen で始まる言い方が、イエスの特徴だったことは間違いない。

### (2). Du sagest's.について

イエスは各福音書で、「メシアなのか」「王なのか」などと問われると、必ず「Du sagest's.それはお前の言っていることだ」と言い返す。これについては別稿「イエスの言葉 Du sagest's.の訳について」で詳述してある ([http://classic.music.coocan.jp/pdf/Du\\_sagest's.pdf](http://classic.music.coocan.jp/pdf/Du_sagest's.pdf) 参照)。

当マタイ受難曲では、第36曲 a (26:64、対大祭司)と第43曲 (27:11、対ピラト)で、イエスは Du sagest's.と言い返している。ここでのバッハの作曲は力強い下降音型だ。ところが第11曲 (26:25)、ユダが「私が裏切ったのですか？」と問うたのに対し、同じく Du sagest's.と答える所は4度の上昇音型で雰囲気がいぶ違う。

この部分について磯山雅氏は大著「マタイ受難曲」p.203で

ルター訳のドイツ語に関する限り、ここははっきりとした肯定と理解すべきである。(中略)

(ドイツ語の口語では今日でも「その通りだ」という意味にこの言葉を使う。)

バッハもこの句を、ト短調の明確なカデンツをなすように作曲しており、あいまいな含みを残していない。

と書かれているが、賛同できない。

大祭司やピラトとの問答での下降音型と、ユダへの上昇音型は、全く雰囲気が異なる。ここのバッハの曲は、イエスがユダに対して呆れた、残念に思う気持ちを表しているようにしか感じられないのである。これがまた、聖書学者 田川建三氏の「お前がそう言うのか？」という名訳にピッタリなのである。

その他の所についても、そもそも「ユダヤの王なのか」と問われたイエスが「そうだ」と答えるわけではない。「それはお前が言ってることだろ」のほうがイエスの強烈な人格をよく表現できるし、バッハの作曲とも矛盾しない、と考える。

(ヨハネ受難曲でのヨハネ 18:37 は例外。ここはルターの間違った解釈のせいで、「その通り、私は王だ」と訳さないと意味が通らない。)

### (3). マタイとヨハネの受難物語比較

マタイ福音書の受難物語によれば、「最後の晩餐」イコール「過越の食事、ニサン15日」であり、その晩にイエス逮捕。引き続き大祭司カイファ邸での裁判。ペテロの否認とともに鶏が鳴いて、夜明けとともに総督ピラト邸へ。ピラトは早朝から彼らに対応を強いられ、もの凄い即決裁判。シモンに十字架を担がせゴルゴタへ行き、イエスを十字架につけた。その時刻についてはマタイ福音書では特に記述は無いが、そのネタ本であるマルコ福音書では朝9時と書いてある。共観福音書の語る、この日の午前中のスケジュールには、どう考えても無理がある。(その後、昼12時に全地が暗くなり、午後3時にイエス死去、そして埋葬と続く。)

イエスの裁判と処刑に関しては共観福音書よりも「ヨハネ福音書」のほうが、正確だし情報も細かい。

同書ではまず、晩餐後の夜中にイエスが捕まってまず連行されるのが、大祭司カイファ邸ではなくその舅の祭司長ハンナ邸であり、そこでイエスの処分がほぼ決まる。その後連行されたカイファ邸では何も記載事項が無い。ハンナとカイファの政治的関係が分かっていたヨハネ原著者の正確な記事である。ハンナはカイファの前任の大祭司で、退任後も祭司長として、かつカイファの舅として実権を握っていた。(また、ペテロがハンナ邸の中庭に入れたのは、「ハンナの知り合いであるもう1人の弟子」の手引きによるものだった、との具体的な記述もある。その弟子以外にイエス側の人間はいないから、彼こそが「ペテロの否認」の証言者である。)

カイファ邸から総督ピラトの元へ連行した朝の記述では、ユダヤ人たちは「汚れることなく過越の食事をしたかったから」ピラト邸の敷地に入らなかった、と書いてある。また、昼の12時にピラトが判決を下すところでは、「この日は過越の準備の日 Rüsttag in Ostern」だ、と書かれている。

そしてその翌日(=この日の日没から)は「大いなる安息日」、すなわち「大きな祭日(過越祭)が重なった安息日」だ。

イエスとその両脇の2人は「過越の準備の日」の午後に十字架につけられたのだが、日没で「過越祭かつ安息日」になってしまう前に死んでもらうため、両脇の2人は脚を折られる。しかしイエスは既に息絶えていたので折られずに済んだという。ここまでスケジュール的に無理はない。(ヨハネ福音書第13章における最後の晩餐は、過越とは無関係。しかも聖体拝領のもととなる話はない。その代わりに、イエスが弟子たちの足を洗う話がある。=洗足の木曜日。)

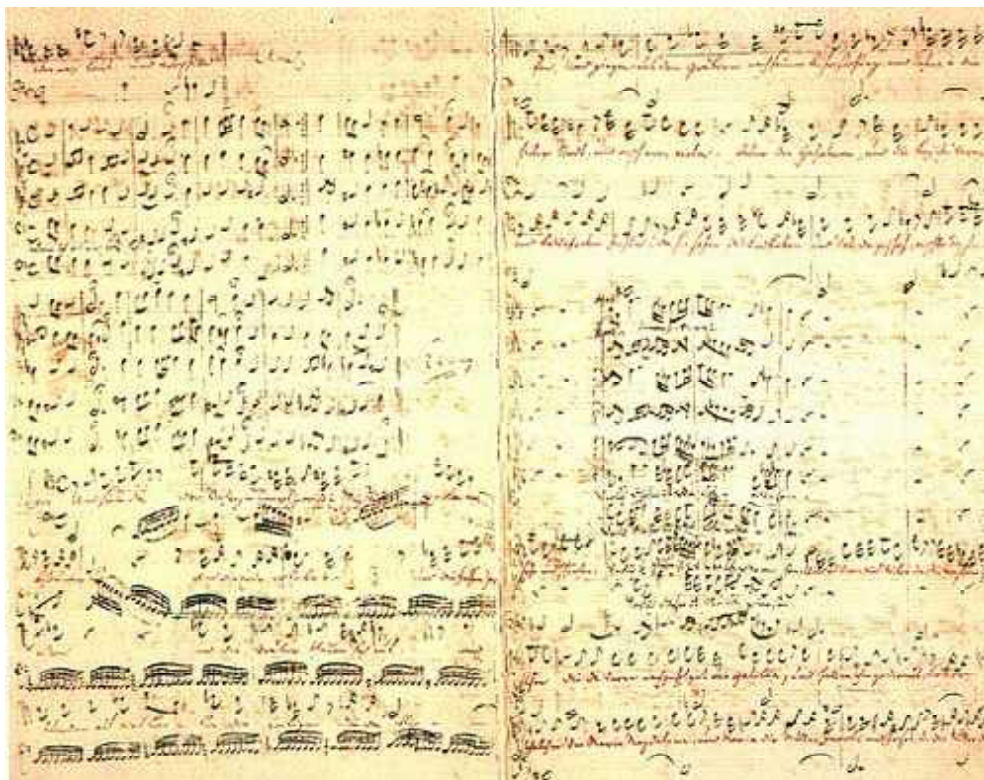
ただし、イエスの最後の言葉は、マルコ・マタイ両福音書にある「我が神よ、どうして私をお見捨てになったのですか」が「歴史的事実」である。イエスが神に疑問を投げかけるという問題発言を、わざわざキリスト教会が創作するはずがない。教会にとって都合が悪い言葉なのに、それが残っているというのは、とりもなおさずそれが真実の言葉だったからだ。ルカの優等生発言や、ヨハネの神秘的な言葉のほうが「作り話」なのである。



#### (4) 「マタイ受難曲」の中の“十字架”

バッハの清書スコアにおいて、「まことに彼は神の子であった」という Nr.63b (旧全集では Nr.73) の合唱のページは、その合唱部分をページの中央にぎっしり詰めて書いて、スコアの風景が十字架に見えるように“デザイン”されている。

右ページ中段にその2小節の合唱が詰めて書かれており、十字架の幹のように見える。(左ページ下の細かい音符は地震の場面。)



また、第2部中核部分の楽曲配列では、キアスムス（交叉配列法）というキリストの頭文字Xに由来する伝統的象徴技法が用いられている。

	Nr.36a	……ホ短調
—	Nr.36b 合唱 I II 「この男は死罪に値する！」	
	Nr.36d 二重合唱 「言い当ててみる、キリストよ！」	
	Nr.37 コラール 「誰がこのようにあなたを打ったのか」	……ヘ長調
—	Nr.38b 合唱 II 「お前もあの男の仲間だ」	
	Nr.39 アルト・アリア 「憐れみ給え、神よ」	
—	Nr.41b 二重合唱 「我々に何の関係があるか、自分で始末しろ」	
	Nr.45b 合唱 I II 「十字架につけよ」	……イ短調
	Nr.46 コラール 「何と驚くべき刑罰」	
	Nr.49 ソプラノ・アリア 「愛の御心から」	……イ短調
—	Nr.50b 合唱 I II 「十字架につけよ」	……ロ短調
	Nr.50d 合唱 I II 「その血は我々と我々の子孫を襲えばよい」	
	Nr.51 アルト・レチタティーヴォ 「憐れみ給え、神よ」	
	Nr.52 アルト・アリア	
—	Nr.53b 二重合唱 「ごきげんよう、ユダヤの王よ」	
	Nr.54 コラール 「おお、血と傷にまみれた御頭」	……ヘ長調
—	Nr.58b 二重合唱 「神殿を打ち壊し三日で建てる者よ」	
	Nr.58d 二重合唱 「他人を救ったのに、自分は救えない」	……ホ短調

ドイツの音楽学者フリードリヒ・スメントは、1926年に「バッハのヨハネ受難曲 — その構造の研究」において、ヨハネ受難曲第2部には前後対称の楽曲配分による心臓部を持つ、と指摘。さらに1928年には「バッハのマタイ受難曲 — 1750年までの作品史の研究」において、同じアイデアをマタイ受難曲にも用い、その中心はNr.49のソプラノ・アリア「愛の御心から」である、とした。しかし、その構造はヨハネほどの強固さは無いとも述べている。

参考：磯山雅「マタイ受難曲」、田川建三「イエスという男」「書物としての新約聖書」「新約聖書 訳と註」